

ICT Center for Learning Support

ICT活用学習支援センター報
創刊号
2012年7月

熊本高等専門学校

ICT

ICT活用学習
支援センター報

創 刊 号

熊本高等専門学校



熊本高等専門学校 ICT活用学習支援センター 2012年7月

2	巻頭言 はじめに
3	ごあいさつ 熊本高等専門学校ICT活用学習支援センター報創刊号発行
4	寄稿 WebClassを活用した数学自学自習用教材作成の試み
5	放送スタジオからメディア制作スタジオへ
6	新カリキュラムにおける情報基礎教育を担当して
8	WebClassを用いた学習自己点検の試み
10	報告 プロジェクト報告 ICT活用学習支援センター研究・教育プロジェクトの成果
11	セミナー・講習会報告 コンテンツ制作ソフト「ThinkBoard」講習会 平成23年度中学校サマーセミナー
12	追尾型講義（ビデオ）コンテンツ作成システムi-CollaboAutoRec講習会
13	熊本シニアネット八代支部会員への「EXCEL入門」セミナーの開催 社会人講座「EXCEL2007入門」開催
14	平成23年度熊本県中学校プログラミングコンテスト
15	平成23年度高専学生によるIT講習会
16	会議・研修等参加報告 平成23年度第31回高等専門学校情報処理教育研究発表会参加報告
17	平成23年度eラーニング高等教育連携（eHELP）全体会議報告
18	障害・メンテナンス状況 サーバ・ネットワーク関係 障害・メンテナンス記録（熊本キャンパス）
19	障害対応・メンテナンス状況の作業報告 —サーバ関係—（八代キャンパス） 教育用システム関係
21	教育用システム障害・メンテナンス記録（熊本キャンパス）
22	教育用システム障害・メンテナンス記録（八代キャンパス）
23	資料 ネットワーク概略図／熊本キャンパス新設備
24	平成23年度演習室インストールソフトウェア一覧（八代キャンパス）
25	平成23年度ICT演習室時間割（八代キャンパス）
26	WebClass利用状況（熊本キャンパス）
29	WebClass平成23年度コースごとのコンテンツ利用状況（八代キャンパス）
30	平成23年度八代キャンパスICT活用学習支援センター演習室の利用状況
33	図書館統計（入館者数、蔵書数、分野別貸出冊数、月別貸出冊数） 施設見学者一覧
34	平成23年度活動一覧
35	ICT活用学習支援センタースタッフ ICT活用学習支援センター運営委員会委員 ICT活用学習支援センター熊本キャンパス委員会委員 ICT活用学習支援センター八代キャンパス委員会委員
36	編集後記

はじめに

熊本高等専門学校 校長 宮川 英明



平成21年10月の高度化再編によりスーパー高専として熊本高専が設置されて2年半余りが経過し、現在3学年までが新高専の新しい学科への入学生となりました。熊本高専では教育・研究・地域貢献活動を高度化し支援するためのセンターとして、地域の拠点センターとしての役割も担う、ICT活用学習支援センター、地域イノベーションセンター、PBL・総合教育センターの3センターを新たに設置し、開校と同時にそれぞれ活動を開始しました。

近年の目覚ましいICT分野の技術革新は情報化社会の進展をもたらし、あらゆる分野で我々の生活はその恩恵を受けています。教育分野におけるICT利活用については、先進諸国の多くが国家プロジェクトとして強力にこれを推進しているのに対して、日本はいろいろな面で遅れをとっているとの指摘がなされています。このような状況を改善するために、IT戦略本部は平成21年7月「国民主役のデジタル安心・活力社会の実現を目指して」という副題を付けた「i-Japan戦略2015」を発表しました。これは「IT新改革戦略」を引き継ぐ新たなデジタル戦略という位置付けで、平成27年までに実現すべきデジタル社会の将来像と実現に向けた戦略が盛り込まれています。その戦略では教育・人財分野が三大重点分野の一つとして取り上げられています。

文部科学省は初等中等教育における教育の情報化を推進するために、平成22年に「教育の情報化ビジョン～21世紀にふさわしい学びと学校の創造を目指して～」を、総務省は「教育分野におけるICT利活用推進のための情報通信技術面に関するガイドライン2011」を発表するなど、教育分野におけるICTの利活用が国を挙げて推進されようとしています。

本校においても、ICTの目覚ましい発展と情報化社会へ対応するため、ICT先端技術の導入そして活用をさらに積極的に推進する必要があると考え、熊本高専設立当初から図書館を含む組織としてICT活用学習支援センターの設置を計画しました。文部科学省および高専機構のご配慮でセンターの改修と機器の設置等が進み、八代キャンパスは23年度から、熊本キャンパスは24年度から本格的な活動・利用が可能となりました。このセンターは図書館の整備や図書利用の促進をはじめとして、ICT教育の高度化、ICT活用による自主的学習の支援、ICTによる校務の効率化、ICT分野での地域貢献活動、ネットワーク環境の管理・更新などを主な業務としています。施設の整備が進んだことから、今後ICTによる学習支援や校務の効率化がさらに進展するものと期待しています。

このICT活用学習支援センター報ではセンターの概要と本センターをめぐる話題等を中心にこれまでの活動をまとめました。今後も本センターや熊本高専に対して、忌憚のないご意見やご助言を賜りますようお願いいたしますと共に、変わらぬご理解とご支援をお願い申し上げます。

熊本高等専門学校 ICT 活用学習支援センター報創刊号発行

ICT 活用学習支援センター長 米沢 徹也

平成21年10月に熊本電波工業高等専門学校と八代工業高等専門学校が再編統合して熊本高等専門学校が開校されました。同時に熊本電波工業高等専門学校の高度情報教育センターと図書館、八代工業高等専門学校の情報処理センターと図書館が統合され、ICT活用学習支援センターが新設されました。新設に伴い平成22年度には八代キャンパスのICT活用学習支援センターの改修工事が行われ、すべてのサーバ、教育用パソコンを改修されたサーバ室や演習室へ移設しました。平成23年度には熊本キャンパスのICT活用学習支援センターの改修工事を終え、ICT活用学習ルームやメディア製作スタジオの設備が整いました。平成24年4月に八代キャンパスのサーバの更新、平成25年4月には両キャンパスのネットワーク機器の更新および八代キャンパスの教育用計算機システムの更新も計画されています。

このように環境整備が進む中、ICT活用学習支援センターの委員はICT基盤の整備、ICTによる教育・研究・地域連携活動の支援、図書・学術情報の収集、活用、管理の業務に取り組んでいるところです。今回、本センターの取り組み内容を創刊号として広報誌にまとめることになりました。ご多忙中にもかかわらず原稿依頼をご快諾下さいました宮川校長、また、原稿を執筆頂きました諸先生方には心より御礼申し上げます。皆様のご協力のおかげをもちまして発行を迎えることができました。準備不足のために十分な内容とはなっていませんが、是非ご一読頂き、広報誌やセンター活動について皆様からの忌憚のないご意見をお寄せ頂ければと思っています。

今後ともICT活用学習支援センターの活動にご理解とご協力を賜りましたら幸いです。



Webclassを活用した 数学自学自習用教材作成の試み

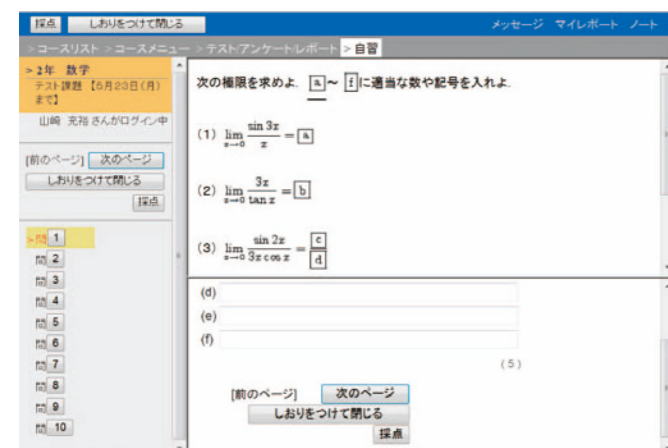
熊本キャンパス共通教育科 山崎 充裕

はじめに

稿者の平成23年度授業担当は、数学Ⅱの微分積分（週2時間）×4クラス、数学Ⅲの微分積分（週3時間）×2クラスであった。微分積分は、理工系科目を学習する上で不可欠であり、基本的な計算ができ、定義や定理、公式の意味を理解し応用問題への適用ができることを到達目標とする。そのためには、自学自習における豊富な問題演習が必須である。しかし、その評価には、記述式試験（小テスト）や添削（レポート）によることが望ましいが、時間と労力を要することが課題である。そこで、稿者は、eラーニングによる方法を試みた。

本教育実践について

稿者は、Webclassのテスト問題作成機能を利用し、自学自習用教材を作成した。例えば、単元「関数の極限」においては、数値入力形式の問題を42問準備し、そのうち10問をランダムに出題した。学生には、各自解答し、7割以上得点できた時点（合格）で、途中計算式を含めた学習記録をレポートとして提出させた。この



取り組みは、基本的な計算能力習得の観点において、合格点に達した学生と達しなかった学生を比較した場合、小テストや定期試験等の記述式試験の成績に相関がみられ、一定の教育効果があったと考えられる。また、Webclassの機能として問題毎の正答率や解答時間が表示されることで、学生の苦手とする問題等を分析することができた。

まとめ

今後は、eラーニングを活用することにより、学生の自学自習を促すとともに、学生が誤解答に陥りやすい部分や理解の定着度の悪い部分を調査・分析することにより、効果的・効率的な指導に繋げていきたい。また、外部評価審査資料として保存してある過去数年分の定期試験の答案を活用し、誤解答例を抽出・検証することにより、多様化する学生の実態に留意した教材作成を行いたい。

分析結果	平均値 [35.76]	最大値 [49.00]	最小値 [30.00]	中央値 [35]	標準偏差 [4.91]
問題番号	正答率	最小解答時間	平均解答時間	最大解答時間	結果
1	88%	54.0秒	817.1秒	4401.0秒	Check
2	87%	106.0秒	677.2秒	4885.0秒	Check
3	64%	128.0秒	3965.2秒	22197.0秒	Check
4	61%	75.0秒	1014.6秒	2585.0秒	Check
5	20%	34.0秒	1307.9秒	4351.0秒	Check
6	82%	100.0秒	849.3秒	3377.0秒	Check
7	54%	71.0秒	1629.5秒	11606.0秒	Check
8	52%	176.0秒	2065.1秒	9731.0秒	Check
9	30%	266.0秒	2141.9秒	10034.0秒	Check
10	9%	142.0秒	2776.5秒	6080.0秒	Check
11	76%	145.0秒	1189.5秒	3576.0秒	Check
12	7%	159.0秒	1310.1秒	6298.0秒	Check
13	78%	167.0秒	857.6秒	3217.0秒	Check
14	54%	109.0秒	2085.9秒	10184.0秒	Check

放送スタジオからメディア制作スタジオへ

情報通信エレクトロニクス工学科 3年 清田 奈那

平成23年度からICT活用学習支援センター（旧図書棟）が改築され、主に放送広報委員会が使用してきた放送スタジオも、AVルームとともに、新しくメディア制作スタジオとして生まれ変わりました。

メディア制作スタジオは、旧AVルームが制作スタジオとなり、旧放送スタジオがコントロール室となりました。今までの放送スタジオと異なる点は、名前だけではありません。今まで、主に放送広報委員会が使用してきましたが、メディア制作スタジオとなってからは、使用許可を申請すれば誰でも使用できるようになりました。したがって、先生方だけでなく学生、また熊本キャンパスに留まらず、八代キャンパスの方も使用できるようになりました。これを機に、気軽に八代Cと熊本Cの交流が深まればと思います。

メディア制作スタジオは、上記の通りスタジオとコントロール室の二部屋に別れています。スタジオでは、主に音声や映像の収録を行います。この部屋は、防音効果と遮光効果が非常に高い部屋であるため、音声、映像の収録をするには、最高の空間です。例えば、軽音部の演奏の収録ができます。その他では、音声だけのドラマや、様々なジャンルの映像を撮影することも可能です。また、コントロール室では、スタジオで収録したものの編集などを行います。

このスタジオでは、Ustreamなど生中継で情報を発信することも可能で、上記に記したようにドラマ等を作るだけでなく、学生や学外へ向けて情報を発信することができるように作られています。例えば、病気等で学校を休んだ学生が、自宅でそのときの講義をスタジオから発信される映像で視聴できるようになる、といったことです。これは本当に素晴らしいことだと思います。実際、学校を休んだ時に友達から借りたノートだけで理解するには限界がある教科もあります。だから、このようなシステムが実現できれば、すごく助かります。

最後に、私事ながら個人の感想を述べさせていたこうと思います。メディア制作スタジオは、本当にテレビ局に来たかのような気分になるぐらい、素晴らしい機

材がそろっています。私は、このスタジオの機材に慣れるために日々勉強しており、一つずつ新しい知識が増えていくのがちょっとした楽しみです。放送部や電波祭実行委員の活動を通して、今まで音響を少しながらしてきましたが、このスタジオの機材に触れ、今まで以上に興味を持つようになりました。機材の取り扱いにおける知識は、まだまだ足りませんが、メディア制作スタジオを使用する学生の方にもわかりやすく教えることができるように、これからも日々努力しようと思っています。そして、私自身も放送部員と共に、メディア制作スタジオを使って、在校生や熊本高専を受験したいと思っている中学生向けにドラマや番組を作ってもっともっと技術力の向上を目指したいと思っています。



コントロール室

新カリキュラムにおける情報基礎教育を担当して

八代キャンパス共通教育科 磯谷 政志

平成22年度に熊本高等専門学校の1期生を迎えて今年で3年目になる。新高専となり、今までの4学科体制から熊本、八代両キャンパス共に1学科減の3学科体制となった。八代キャンパスの新学科は、機械知能システム工学科、建築社会デザイン工学科、生物化学システム工学科の3学科となり、情報系を専門とする学科がなくなっている。しかしながら、ICTを各学科の教育の柱の一つとしてカリキュラムを構築し、数学や英語のように3年生までの共通科目として、どの学科でもICT系科目を受講するようになってきている。

筆者は1年生の『情報基礎』を担当して3年目であるが、この科目の内容について、少し述べていきたいと思う。図1(a)～(b)は、平成24年度の1年生に対して、1回目の講義で取ったアンケート結果である。3学科とも分布においてはほぼ同程度であるので、1年生全体のグラフとしている。アンケート結果からは以下のようなことが分かる。

- (a) コンピュータの使用経験については約半数の学生があまり利用していない。
- (b) Word、Excelについては7割、PowerPointについては6割の学生が使ったことがある。
- (c) キーボード操作については約2割があまり見なくても入力できるが、8割は見ながらの入力しかできていない。
- (d) プログラミングについては18%しか経験がない。

アンケート結果を踏まえて

アンケート結果を踏まえながら、年間30回の授業について講義と演習の比率を半々にして、約2/3をリテラシー教育に、約1/3をプログラミング教育に充てている。入学時のコンピュータ経験に大きな開きがあることから、コンピュータに慣れていない約半数の学生のボトムアップを計りながら、半数の使い慣れた学生に対し

ては、課題が早く終わったら周りにはいる不慣れた学生のサポートをさせている。その際は、不慣れた学生の代わりに操作をすることを禁止し、口頭でのサポートのみとしている。口頭での説明で相手を指導することの難しさを経験させ、説明能力の向上を計っている。

リテラシー教育

入力操作を効率よくできるように、キーボードを見なくても入力できるタッチタイピングを課題としており、1分間に100文字を正しく入力できることをクリアレベルとしている。1日に1つの章を練習し、合計10の章を延べ10日間、1日あたり約40～50分間を毎日練習することでタッチタイピングが出来るようになる練習ソフトを授業に取り入れている。

授業開始10分間は出欠を取りながらタイピング練習に充てると共に、10日間だけは昼休みや放課後の練習を義務づけている。八代工業高等専門学校情報電子工学科の1年生に課してきた課題から数えれば10年以上タイピングの指導をしているが、過去全ての学生が課題をクリアできている。

タッチタイピングは自転車の運転と同じで、一度覚えれば忘れることがない。筆者も同じソフトでタッチタイピングを覚え、以来30年以上たった今でも指はきちんと動いている。

その他のリテラシー教育では、ネット教育、ファイル操作、メールの使い方、Office系ソフト（Word、Excel、PowerPoint）の使い方、プレゼンテーション練習等を行っている。

プログラミング教育

情報系を専門としない学科の学生に対して、テキストベースの“Hello World!”から始まるC言語の教育を

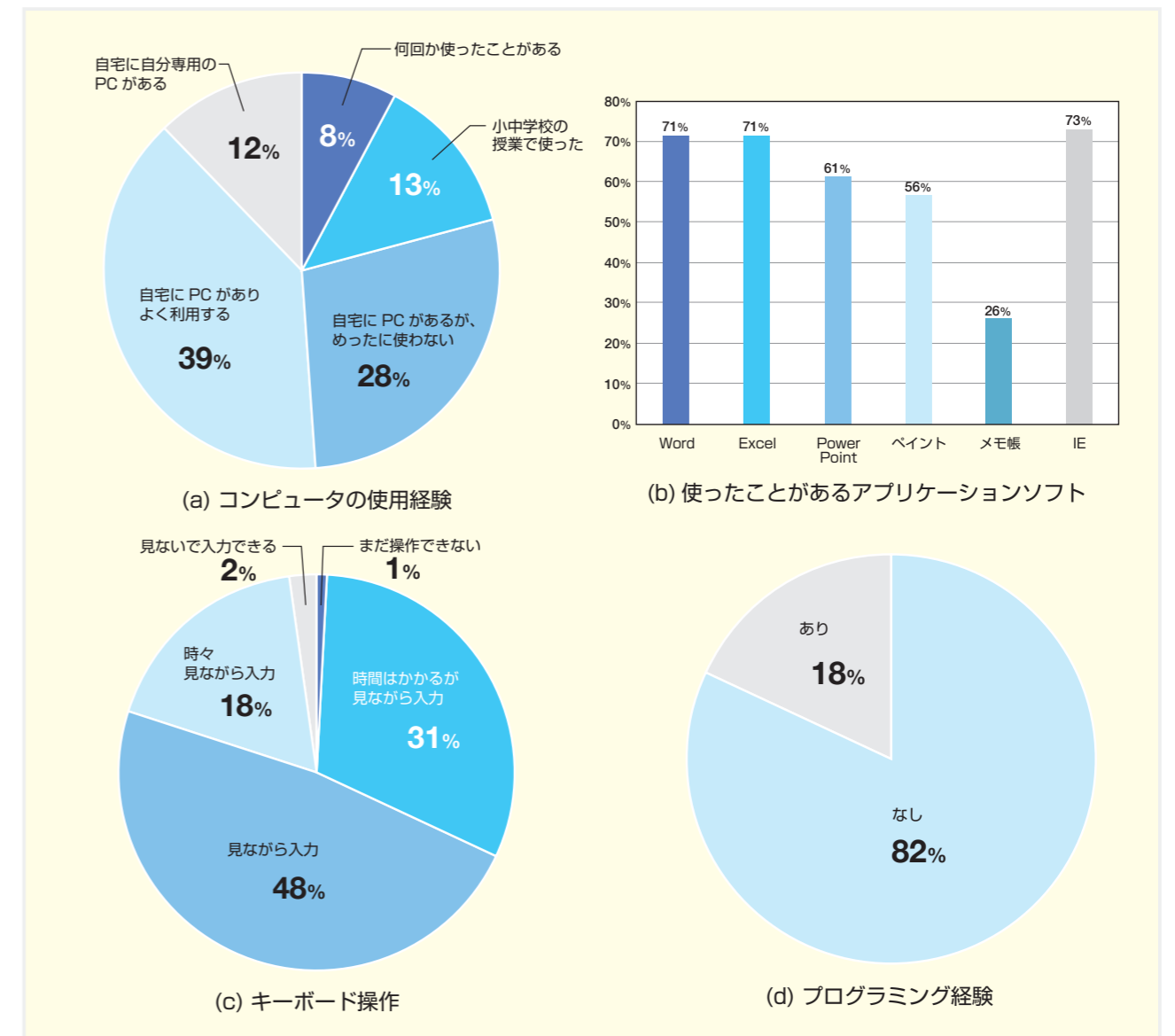


図1.平成24年度 新入生アンケート結果

行ってもついてきてもらえないと考え、C言語と親和性が高く、アニメーションを比較的簡単に描画できるProcessingを言語として選び、学生を飽きさせないで動きのあるプログラミングが出来るように工夫している。画面をボールが動き回るプログラムをアレンジしながら、条件分岐、繰り返し、配列、関数等を学べるようにしている。

また、eラーニング教材を用いた演習も多く取り入れている。慣れてきた学生は適宜プログラムをアレンジして自分の作品を友人と見せ合っている姿をよく見かける。Processingはフリーソフトであり、また、eラーニング教材は学外からも見ることが出来るので、自宅のPCにProcessingをインストールして自学している学生も出

てきている。

2年生以降のC言語でのプログラム教育への繋ぎとして、プログラミングの基本的な事項を実習を通して体験することで、プログラムを書くことに対するアレルギーとハードルを少しでも下げることが出来ればと思っている。

なお、本授業は1クラスを教員2名で担当し、操作に慣れた学生サポートと共に補助教員が不慣れた学生のサポートをしている。

WebClassを用いた学習自己点検の試み

生物化学システム工学科 村田 美友紀

はじめに

熊本高専八代キャンパスでは、学生自身が受講してきた科目について、レベルアップを目指して自学自習を改善するために、定期試験がすべて返却された後、HR等を利用して学生が学習自己点検を行っている。この自己点検は、図1に示す教務システムよりダウンロードした学習自己点検シート（以下シートとする）を用いており、学生には紙媒体で提示される。シートには、各科目についての平均点、各自の点数と欠課時数、クラス順位が記載されている。学生は、各教科について「授業の取り組みは積極的でしたか」といった4つの項目について5段階評価を行い、総合点検と次回の試験に向けての学習目標を記入する。

筆者が担任をした経験から、5段階評価の記入が乱雑ですべて同じ数字である、総合点検では「悪かつ

Figure 1 shows a 'Learning Self-Check Sheet' (学習自己点検シート) for the 2023 academic year. The sheet includes a header with the year (平成33年度) and course (情報電子工学科), a table of course scores and attendance, and a section for self-evaluation with five questions and a space for comments.

科目	科目名	科目平均	点数	欠課	①	②	③
1	国語Ⅱ	66.3	68				
2	政治・経済Ⅱ	66.2	63	1			
3	倫理・社会	69.4	68				
4	数学Ⅱ	62.6	65				
5	英語Ⅱ	75.2	74				
6	総合理系Ⅱ	77.1	81				
7	保健・体育Ⅱ	61.9	69	2			
8	芸術Ⅱ	74.6	93				
9	プログラミング基礎	76.6	66				
10	電子工学	69.9	62				
11	情報電子工学基礎Ⅱ	69.8	66				
12	電気回路	74.1	78				
13	コンピュータ工学基礎	76.3	79				
14	情報処理工学基礎	69.2	62				
15	特別活動						

図1：学習自己点検シート

た」、「まあまあ」とだけ記入しているといった安易な回答が見受けられ、自己点検の目的が十分達成できていないように思われた。このような回答を行う原因として、手書きによる煩わしさがあるのではと考え、筆者が担任した平成23年度3年情報電子工学科において、e-learning 管理システムWebClass¹⁾による自己点検を実施した。

本稿では、コンテンツの概要について述べ、使用した学生を対象に行ったアンケート結果を考察することにより、WebClassを用いた学習自己点検の有用性について検討する。

学習自己点検コンテンツ

図2に作成した学習自己点検のためのコンテンツ（以下コンテンツとする）の一部を示す。コンテンツは、アンケート方式とした。質問項目には、学習自己点検シートに記載の質問のほか、教科ごとのコメント、次の試験に向けて掲げた目標を達成するためにすべきことなどを追加した。5段階評価項目については、入力の手間を軽減するためオプションボタンを採用した。また、成績情報が含まれるため閲覧は学内に制限した。

Figure 2 shows a 'Learning Self-Check Content' (学習自己点検コンテンツ) interface. It includes a header with the year and course, a list of questions with multiple-choice options, and a section for comments and target setting.

図2：コンテンツの一部

1) <http://www.datapacific.co.jp/webclass/index.html>

表1：アンケート結果

(%)

コンテンツの方が	とても良い	良い	変わらない	悪い	とても悪い
質問内容の回答のしやすさ	19.1	46.8	27.7	6.4	0.0
総合点検（反省）の記入しやすさ	10.6	55.3	27.7	6.4	0.0
次回の試験に向けての目標の記入しやすさ	12.8	46.8	38.3	2.1	0.0
自己点検に役に立ったか	8.5	27.7	63.8	0.0	0.0

評価

年4回の試験の自己点検にコンテンツを用いた。学生は配布された従来のシートを参考にしながら質問項目に回答する。シートをWebClassで配布しなかったのは、教務システムからダウンロードできるシートは1クラスが1つのファイルとしてまとめられているため、これを学生個人ごとに分割し、WebClassで配布用のコンテンツを作成する作業を軽減するためである。また、紙媒体で配布することにより、欠課時数などに疑問があった場合シートを持参して説明できるなどといった利点もあると考えた。学年末試験後にコンテンツの利用に関するアンケートを行った。回答数は47である。なお、当該クラスは2年次にも筆者が担任をしたクラスであり、2年次にはシートによる自己点検を行っている。

表1より、回答のしやすさ、記入のしやすさについては、60%以上の学生が良い、とても良いと答えており、対象とした学生が情報電子工学科の学生でPC操作に慣れていることを考慮しても、手書きによる煩わしさが解消されていることが分かる。また、自己点検に役に立ったかとの回答では、35.2%の学生が良い、とても良いと答えているが、63.8%の学生が変わらないと答えている。しかし、総合点検や次回への目標など記述部分の記入量が増えており、シートを用いた場合に比べて、より詳細な点検ができていると考えられる。

また、自由記述では、過去の試験のコンテンツを閲覧できるため振り返りができるのでよという回答と紙の方が早く終わるといった意見があった。また、コンテンツの構成については、科目ごとにまとめてほしい、目標と自己点検を同時に閲覧できた方がよいなどといった要求があった。

学生の回答時間は、従来のシートを用いた場合では10分程度であったが、コンテンツを用いた場合では20分程度を要した。質問項目、学生による各項目の記入量が増えていることが要因であると考えられる。

まとめ

自己点検コンテンツを利用することにより、手書きによる記入の煩わしさが軽減されることが分かった。これは、総合点検などの記入量を増加させることにつながり、自己点検の精度が向上したといえる。担任としても、試験に対する準備や反省など学生の状態の把握、成績通知表の担任所見の記載の材料として役立った。以上より、コンテンツを用いることで、自己点検がますます有効に作用することが期待できる。

コンテンツの改良点としては、過去データの閲覧方法がある。WebClassの機能を精査し、コンテンツの作成方法を工夫することで対応可能であると考えられる。また、複数のクラスが同時に使用する際には、演習室の確保という点で問題がある。これに関しては、学内無線LANを利用したモバイルアクセス環境の整備、自己点検の実施の形態を検討することによって解決を図る必要があると考える。

ICT活用学習支援センター研究・教育プロジェクトの成果

情報通信エレクトロニクス工学科 石橋 孝昭

プロジェクト

音響信号を用いた技術の可視化に関する学習支援プロジェクト

プロジェクトメンバー

代表者

情報通信エレクトロニクス工学科 准教授 石橋 孝昭

共同実施者

専攻科 准教授 小田川裕之
 制御情報システム工学科 准教授 中島 栄俊
 人間情報システム工学科 准教授 藤井 慶

プロジェクトの目的

音響信号処理技術を中心に、教科書で読むだけでなく、技術を実際に見られて触れられる教材を開発することで、ものづくりを意識した高専教育の学習を支援することを目的とする。特に、本プロジェクトは、専攻科を含む全学科の若手教員を中心として立ち上げている点に特徴があり、技術に未習熟な学生の意見を取り入れ、学生の立場に立って学習支援することを目的としている。

プロジェクトの内容

既存の技術である各種フィルタ、ノイズキャンセラ、エコーキャンセラ、エフェクタなどは、身の回りのあらゆる機器に利用されている。これらの技術については、教科書で紹介されているが、実際はブラックボックス

化されていて身近に感じるができない。そのため、それらの技術の存在を明確にすると同時に、その技術の設計方法を身に付けるための支援を行う。本プロジェクトでは、身近に存在している馴染み深い音響信号を用いることで高い学習支援効果を目指す。

成果報告

音響信号処理の研究に関する取り組みとして、平成23年度は、以下の成果を上げた。

【特許】

- 石橋孝昭、“音響信号処理装置、音響信号処理方法、及び音響信号処理プログラム、”特願2011-109067, 2011.
- 松田豊稔、小田川裕之、“表面プラズモンセンサ、及び屈折率の測定方法、”特願2011-14067, 2011.
- 宇佐川毅、菅来禎史、松尾浩太郎、中島栄俊、“出力制御装置、”特許第4774512号, 2011.

その他に、国際会議：3件、口頭発表：18件、技術紹介：8件の成果を発表した。

学生指導に関して、開発教材：5件、アイデアコンテストの指導：1件、ジュニア技術者コンテストの指導：2件、その他に多数の学生に対してものづくりの指導を実施した。

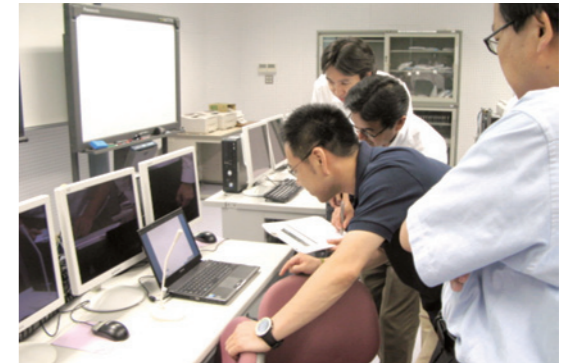
地域連携に関して、公開講座：1件、出前授業：2件、共同研究：1件、技術相談：2件を実施した。

コンテンツ制作ソフト「ThinkBoard」講習会

八代キャンパス共通教育科 米沢 徹也

前期末試験の最終日の8月3日(水)の15:00から16:30にICT活用学習支援センター第2演習室において、15名の教員が参加して「ThinkBoard」の講習会を開催しました。講師は開発元の教育情報サービス社の荻野社長と同社の野崎様をお願いして、コンテンツの制作の手順を実際に操作しながら詳細にご説明頂きました。

た。説明の後、プリンストンテクノロジー社の廉谷様よりワイヤレスタブレットのご説明を頂きました。その後、参加者は準備された実機を取り扱いながら熱心に質問をしていました。ICT活用学習支援センターに1台のシステムを導入しましたので、先生方のご活用を期待しています。



講習会の様子

平成23年度中学校サマーセミナー

平成23年8月27日(土)、28日(日)の2日間に渡って、午前中は10時10分から12時まで、午後は1時から2時50分まで中学生対象のサマーセミナーを八代キャンパスで開催致しました。今年の参加者は27日が23名、28日が17名の延べ40名の参加がありました。2日間連続して参加してくれた生徒は6名でした。本校学生が講師を行いサポートも学生が行うので、年齢が近いこともあり、中学生の皆さんは楽しく勉強に取り組んでいました。初めて使うソフトウェアのようでしたが、ほとんどの人が作品を仕上げ、楽しかったという感想を聞くことができました。



プログラムを使ったゲームの作成



コンピュータグラフィックスの作成

サマーセミナー参加者

セミナーテーマ	8月27日	8月28日
プログラムを使ったゲームの作成	16人	9人
コンピュータグラフィックスの作成	6人	7人
ホームページの作成	1人	1人

追尾型講義 (ビデオ) コンテンツ 作成システムi-Collabo.AutoRec講習会

人間情報システム工学科 小松 一男

平成23年8月29日(月)に熊本キャンパス4号棟3階大講義室において、平成23年度教員研修会が行われ、第1部(9時から10時20分)として追尾型講義(ビデオ)コンテンツ作成システムi-Collabo.AutoRec(以後i-Collabo)講習会が行われましたのでご報告いたします。この教員研修会はFDの一環として毎年行われており、今年は77名の教員が参加しました。まず、リコー ジャパン(株)の荒木利江氏からシステム概要の説明があり、e-ラーニングの現状と課題、i-Collaboの特徴、他の講義集録システムとの比較、起動から操作方法までの説明がありました。次に、人間情報システム工学科の小松より、実際に収録して配信している講義コンテンツの紹介と、家庭用のハイビジョンカメラを三脚に固定し、映像収録してi-Collaboを起動し講義コンテンツ作成、WebClassによりリンクして配信するまでの実演と説明が行われました。

以下は当日参加された方にアンケートをとり、まとめたものです。



教員研修会の様子

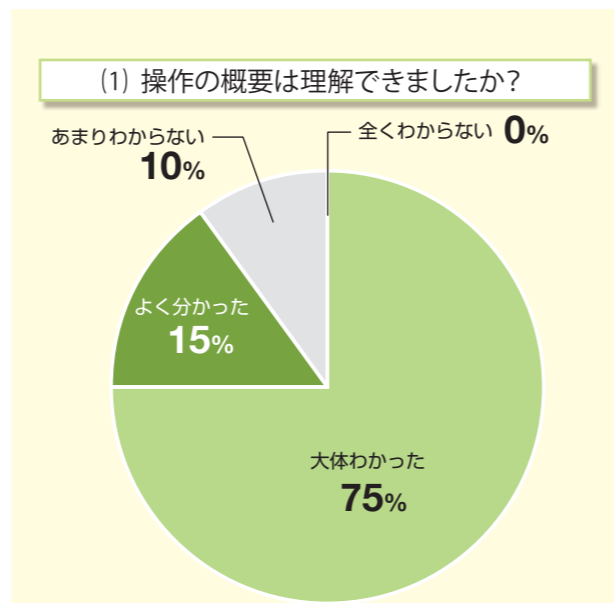


図1 i-Collabo講習会の操作概要について

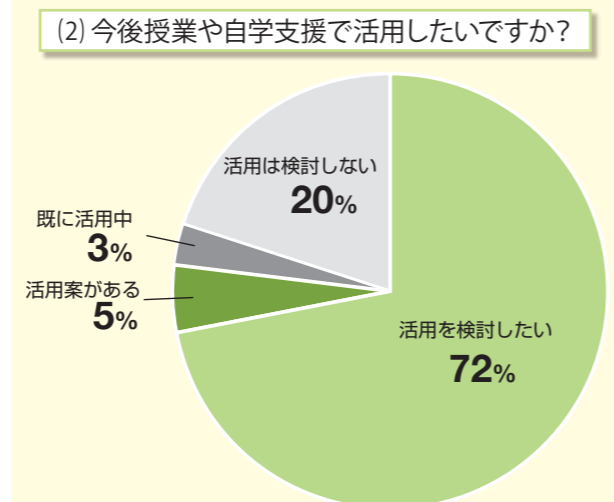


図2 i-Collaboの活用について

熊本シニアネット八代支部会員への「EXCEL入門」セミナーの開催

八代キャンパス共通教育科 米沢 徹也

ICT活用学習支援センターが主催して9月5日(月)~7日(水)の3日間、18:00~21:00にICT活用学習支援センター八代キャンパスの第2演習室で「EXCEL入門」セミナーを開催しました。講師は1日目が米沢、2日目が村田、3日目は村山が担当しました。受講者は熊本シニアネット八代支部の会員の皆様で18名の参加がありました。セミナーの課題は、5日がEXCELによる日誌の作成、健康記録の表の作成とそのグラフ化につ



セミナーの様子

いて、6日がEXCEL VBAを用いたゲーム作りとマクロについて、7日がカレンダーの作成について、と毎日異なり、受講者の皆様は一生懸命に取り組まれました。サポートの学生を6名配置していましたので実習中の質問にも十分に答えることができ、69%の受講者の方が全体の内容の50%以上理解できたとのアンケート結果でした。



社会人講座「EXCEL2007入門」開催

平成23年10月3日(月)~5日(水)の3日間の18:00~21:00にICT活用学習支援センター第2演習室において、社会人講座「EXCEL2007入門」を開催しました。講師は3名の教員が分担(1日目が米沢、2日目が村田、3日目が村山)し、TAとして8名の学生が担当しました。受講者は33名で昨年の「ワード文書作成入門」講座の23名に比べ10名の増加でした。

1日目は「エクセル初歩の初歩」、「家計簿で学ぶエクセルの基本と応用」、2日目は「住所録で学ぶデータ整理と活用術」、3日目は「請求書で学ぶ表計算と関数の利用」についての実習形式の講座でした。受講者の皆さんは熱心に取り組まれ、講師の説明の後の実習では活発に質問が出され、TAの学生も対応に追われていました。

アンケートの集計結果より、講座の満足度について、

「満足」、「概ね満足」と回答された方が32名中29名でした。残りの3名の方は「普通」という回答でした。また、来年も本講座を開講して欲しいと思われる方は31名でした。これらのアンケート結果よりほとんどの受講者の方が満足されていることが分かりました。



EXCEL2007入門の様子

平成23年度 熊本県中学校プログラミングコンテスト

八代キャンパス共通教育科 米沢 徹也

平成23年10月23日(日)の10:00から13:30まで、八代キャンパス1F合同講義室をメイン会場にして、平成23年度熊本県中学校プログラミングコンテストを開催しました。

今年度は、昨年まで開催していた制御部門を取りやめ、フリー部門、WEB部門、デザイン部門の3部門での開催としました。フリー部門は11チーム、WEB部門は2チーム、デザイン部門は4チームの参加があり、応募者は市内の3つの中学校から総数33名でした。

各会場では発表が5~6分、質問時間を2~5分として開催しました。発表者の中学生の生徒の皆さんは自分達が作成した作品の特徴を主張しながら一生懸命に説明してくれました。審査員の教員からは様々な視点から質問が出され、質問を受けた生徒の皆さんは元氣よく答えてくれました。



フリー部門



WEB部門



デザイン部門



開会式

平成23年度高専学生によるIT講習会

熊本キャンパス共通教育科 石原 秀樹

熊本キャンパスでは、協調学習支援事業部の活動として産学連携協力の協力の下、毎年1回地域住民の方を主な対象として、IT講習会を実施しています。内容としては、初歩的なパソコン操作の講習会であり、パソコン入門コース、文書作成初級コース、表計算初級コースの3コースに分けて各コース並行で行っています。

開始当初は本キャンパス教員が講師を務める形で実施していましたが、最近では専攻科生、5年生を中心とした学生に講師を引き受けて貰っています。こうすることにより、受講生の方々からはより親しみ易く、また講師の学生にとっては他人に教えることでより深く内容を理解するとともに、プレゼンテーション能力の向上にもつながることもねらっています。また、ボランティアによる単位認定も行っています。教員はこの講習会のマネジメント、講師学生へのサポートなどを行います。

平成23年度は平成24年2月27日から3月1日までの4日間、毎日18:00から20:00の日程で行いました。各コースの主な内容は次の通りです。

- パソコン入門コース
Windowsの基本操作からmailの使い方まで
講師:情報工学科5年 野口裕華子さん
- 文書作成初級コース
Wordを用いて、編集の基本から案内状の作成などの実用的な使い方まで
講師:専攻科1年 大吉健洋君
- 表計算初級コース
Excelを用いて、表計算の概念から関数等を用いた実用的な使い方まで
講師:専攻科1年 森恒成君

また、各コースとも受講生の方をサポートする補助を学生に依頼し、今回は合わせて17名に引き受けて貰いました。

受講生は、地元の合志市を中心として、定員各コー

ス20名に対し、パソコン入門コース10名、文書作成初級コース10名、表計算初級コース16名の合計36名にお集まりいただきました。年齢層としては、30代から80代の方までおられ60代の方が最多でした。定員に満たなかったのは、PR期間が短かったことが要因として考えられます。

講座中は講師、補助学生とも良く仕事をこなしてくれ、受講生の方からも好評でした。講座終了後のアンケート調査でも、親切だった、丁寧だったといった内容がよく見られ、概ね良い評価が得られました。

その一方、より深く勉強されたい方にとっては日程が短かったようで、半数以上の方が短いという回答でした。

平成24年度以降もIT講習会は継続して実施する予定ですが、今回の結果を踏まえてより良い講座を目指します。



平成23年度 第31回 高等専門学校 情報処理教育研究発表会参加報告

熊本キャンパス共通教育科 石原 秀樹

高等専門学校情報処理教育研究発表会は、平成22年度から、従来別々の開催であった教育教員研究会、プロジェクト研究会と合同開催となり、全国高専教育フォーラムという枠組みの中での開催となりました。今回、全国高専教育フォーラムはその2回目として鹿児島大学を会場に、平成23年8月23日から8月25日までの3日間の日程で行われ、第31回高等専門学校情報処理教育研究発表会はそのうち8月24日から8月25日までの2日間の開催でした。

全国高専教育フォーラムは、基調講演、特別講演も企画され、各研究会に参加でき教員間の交流の幅も広がったようです。

情報処理教育研究発表会は、研究発表が83件と、高専プロコン交流育成協会の企画する講演「高専プロコンの産学連携の新たな展開 一高専プロコンの過去、現在、未来一」（北陸先端科学技術大学院大学情報社会基盤研究センター松澤照男教授）が行われました。

熊本高専からは、情報インフラ整備に関する右記の2件の研究発表を行いました。

今回の研究発表会では、無線LANシステム、認証基盤、小型の情報端末の普及を前提として、e-learningコンテンツを手軽に利用したり、学生の出欠確認などの教務の業務を統合する利用を提案する発表などが目立ち、今後のICT活用の方向性が見えてきた印象を持ちました。



●熊本高専の高度化再編にともなうメール環境の統合とアウトソーシング（藤本洋一・小島俊輔・藤井慶・永田和生・石原秀樹・米沢徹也）

概要：熊本高専の全教職員用電子メールアドレスのドメイン名をkumamoto-nct.ac.jpに統合し、利便性の向上、サーバ管理業務の軽減、停電等の異常時の対応のやりやすさといった観点から、メールサーバの学外へアウトソーシングした件について、その経緯と実施過程、今後の課題などを報告した。

●熊本高専の高度化再編にともなうネットワークの統合（石原秀樹・小島俊輔・藤井慶・永田和生・藤本洋一・米沢徹也）

概要：高度化再編に伴い導入することが決定していたテレビ会議システムを運用するための基盤整備、両キャンパスにおけるe-learningコンテンツの共有のための基盤整備、また今後予想されるサーバ統合への備えとして、熊本高専の両キャンパスのLANをNTTの地域IP網を利用して相互接続し一体化した経緯と、実施過程、今後の課題などを報告した。



平成23年度 eラーニング高等教育連携 (eHELP) 全体会議報告

人間情報システム工学科 小松 一男

平成24年1月6日（金）に東京（会場：銀座会議室三丁目）において、今年度第2回目のeラーニング高等教育連携（eHELP）全体会議に参加しました。本会議は、eHELP設立当初の平成16年度より8年間継続開催されており、eラーニングによる大学・高専間の単位互換協定（6大学・18高専・4機関）を締結して多岐にわたる正規科目を配信しています。本校は平成23年度より参加しており、7名の学生が受信しております。

会議では、長岡技科大eラーニング研究実践センター（CeRA）の福村センター長の開会の辞に続き、（1）熊本大学大学院社会文化科学研究科 鈴木克明 教授による講演、（2）各機関での取組状況、単位互換における授業配信・受信状況、活動方針等の討議、来年度新規参加校（鳥羽商船高専）の承認、（3）eHELPに設置した4研究グループの活動報告、などが行われました。各機関の間で活発な意見交換がなされ、大変有意義な会議となりました。最後に、長岡技科大 新原学長の挨拶で会議が締めくくられました。

■eラーニング高等教育連携（eHELP）とは

大学、高専など全国の高等教育機関の幅広い協力体制を構築し、大規模なeラーニングによる教育実践を展開することによって、実績に裏打ちされた新しいeラーニング実践モデルを構築することを目的としています。

【eラーニング高等教育連携（eHELP）参加機関：24 機関】

千葉大学、長岡技術科学大学（主幹事校）、豊橋技術科学大学、広島大学、九州工業大学、北陸先端科学技術大学院大学、釧路工業高等専門学校、旭川工業高等専門学校、八戸工業高等専門学校、仙台高等専門学校、福島工業高等専門学校、茨城工業高等専門学校、小山工業高等専門学校、群馬工業高等専門学校、木更津工業高等専門学校、長岡工業高等専門学校、岐阜工業高等専門学校、豊田工業高等専門学校、鈴鹿工業高等専門学校、松江工業高等専門学校、徳山工業高等専門学校、新居浜工業高等専門学校、熊本高等専門学校、放送大学ICT活用・遠隔教育センター

障害・メンテナンス記録 (熊本キャンパス)

月 日	内 容	対 処
4月19日	NFSの不具合により旧メールサーバへのアクセス不能	調整
5月18日	5号棟1F実験室へ無線LANアクセスポイント設置	
5月31日	3号棟1F基礎実験室へ無線LANアクセスポイント設置	
5月31日	WebClassサーバのHDDの一つが故障	バックアップ手配
6月3日	K-systemサーバへのWebClassバックアップ	業者に対応依頼
7月13日	E5教室の無線LANアクセスポイントのLANケーブル引き抜き	担任を通して学生への注意
7月22日	DHCPサーバプロセスのダウンのため寮生LAN停止	再起動
8月5日	無線LANアクセスポイントのLANケーブルへのケーブルロック設置	
8月16日	ICTセンター改修に伴う学生課・図書館の一時移設のためのLAN調整	
8月19日	proxyサーバプロセスのダウン	再起動
9月12日	保守契約に基づくSWの定期点検	業者に対応依頼
9月15日	寮LANのタイマーを年間スケジュール可能なタイプに交換	
9月15日	WebClassで一部動画が読めない不具合	業者に対応依頼
9月18日	設備点検による停電	サーバ停止と再起動
10月15日	サーバ室内UPS交換	一部サーバ停止と再起動
10月22日	LAN内でループ発生により1号棟の一部で一時LAN停止	
10月28日	Webフィルタリングの設定ミスにより寮生LANからのWebアクセスが一時停止	設定の修正
11月10日	WebフィルタリングでDNSエラー	自然解消
12月15日	1号棟教室内カメラの設定	
1月5日	WebClassサーバ証明書をUPKIに変更	
2月5日	1号棟2F教室、3F教室へ無線LANアクセスポイント設置	
3月3日	3/5朝までSINET側の不具合により対外接続停止	SINETへ対応を依頼
3月24日	ICTセンターLAN復旧のための機器設置・設定	業者に対応依頼
3月27日	保守契約に基づくSWの定期点検	業者に対応依頼

障害対応・メンテナンス状況の作業報告 -サーバ関係- (八代キャンパス)

ICT活用学習支援センター 小島 俊輔

熊本高専八代キャンパスでは、現在、学内外のネットワーク環境における各種サービス提供のため、ネットワーク基幹サーバが17台稼働している。各サーバの名称と役割を表1に示す。

表1: 学内外のネットワーク基幹サーバの名称と役割 (平成24年3月現在)

場 所	サーバ	役 割
DMZ	サーバ1	名前解決(DNS)、時刻同期(NTP)、メール中継
	サーバ2	学外web公開(教員用)
	サーバ3	仮想化(同窓会srv407a, 学生用webmail srv407b, 高専シンポジウムsrv407c)
	サーバ4	E-learning(Web-Class)
学内	サーバ5	名前解決(DNS), 時刻同期(NTP), DHCP
	サーバ6	squid, アンチウイルス, web閲覧制御, レジストレーション
	サーバ7	メール中継
	サーバ8	教員用Webサーバ, 管理者メール送受信
	サーバ9	学生用Webサーバ, 学生用メール送受信, 学生用Linux演習環境(gauss), 認証用syslogサーバ
	サーバ10	教員データ, FWログ管理
	サーバ11	ネットワーク監視(HP OpenView)
	サーバ12	macアドレス認証
	サーバ13	macアドレス認証(冗長化)
	サーバ14	全サーバHDDバックアップ用(マスタ)
	サーバ15	全サーバHDDバックアップ用(スレーブ)
	サーバ16	ESET NOD32アンチウイルスDB配布
	サーバ17	学内認証サーバ(アプライアンス)

稼働OSは、サーバ11とサーバ17がWindows系OSであり、それ以外の15台はすべてLinux系OSである。また、サーバ4ではLinux系OSをホストOSとして、Linux系仮想マシンを3台稼働させており、管理すべき実質的なサーバの台数は20台である。今回は、この中からサーバ1、サーバ2、およびサーバ5～サーバ9の計7台について、ネットワークマネージャが管理者モードに移行して作業した回数をシステムログより調査した。残りの10台(仮想マシンを含めると13台)についてはハードディスクの容量やOSのログ機能の関係で、1年間のログをすべて保存していなかったか、集計用スクリプトを作成したサーバからのログインが制限されていたため、今回の調査対象から外した。さて、今回の調査対象である7台のサーバにおいて、まず手始めに管理者としてログインした回数を調査したところ、のべ436回であった。ログイン回数を月毎に総計しグラフにしたものを図1に示す。年度末から年度初めとなる2月から5月の作業が全体の67%を占めており、アカウントの調整作業やサーバメンテナンスなど年度替わりの作業負荷が非常に高いことが伺える。



図1: 月ごとの作業回数の推移

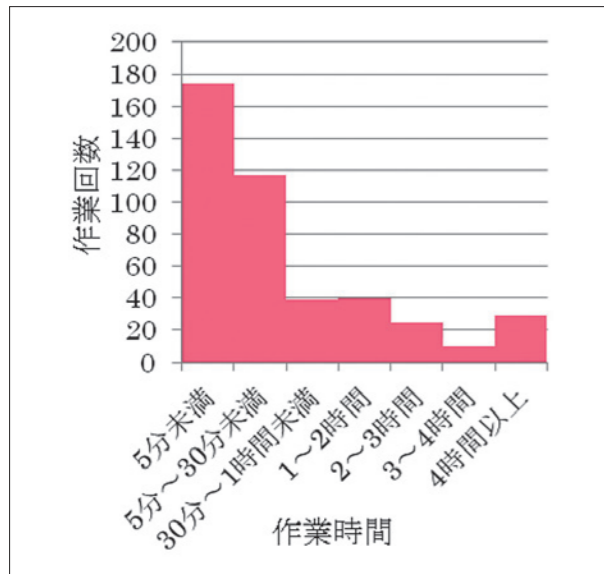


図2: 1回あたりの作業時間の分布

次に、作業1回あたりに要した時間を調査した。結果を図2に示す。5分未満で終わる作業が多数ある一方で、1時間を超える作業も多く存在する。調査の結果、1時間以上を要した作業は、全体の24%であった。また、作業1回あたりの平均時間は約53分であり、最大15.9時間に及ぶものもあった。結果、平成23年度において、7台のサーバのメンテナンスに要した作業時間の総計は386時間であった。次に、各サーバにおいて、管理者ごとの作業回数を調査した結果を表2に示す。調査の結果、管理者Aと管理者Bの作業回数が全作業量の95%を占めていることがわかった。

	サーバ1	サーバ2	サーバ5	サーバ6	サーバ7	サーバ8	サーバ9	総計
管理者 A	18	2	35	15	1	4	19	94
管理者 B	19	1	95	48	3	15	139	320
その他	1	2	2	0	0	8	9	22
総計	38	5	132	63	4	27	167	436

最後になるが、この原稿を書くにあたり、サーバ上で新たに数十行の集計スクリプトを作成しており、統計データの検証まで含めた作業に2-3時間を要したことを付け加えておく。また、今回の調査は、主に学内ネットワークに対してサービスを提供する7台のサーバの作業時間を調査したに過ぎない。しかし、実際にICTセンターで管理すべき機器は、これ以外にも ICTセンター演習室のPC環境を構成するWindows系サーバ、コアスイッチ・フロントスイッチ・学外接続ルータ、無線LAN、ファイアウォールなど多岐に及ぶ。これらの作業内容については本報告には一切入っておらず、別の報告としたい。

教育用システム関係

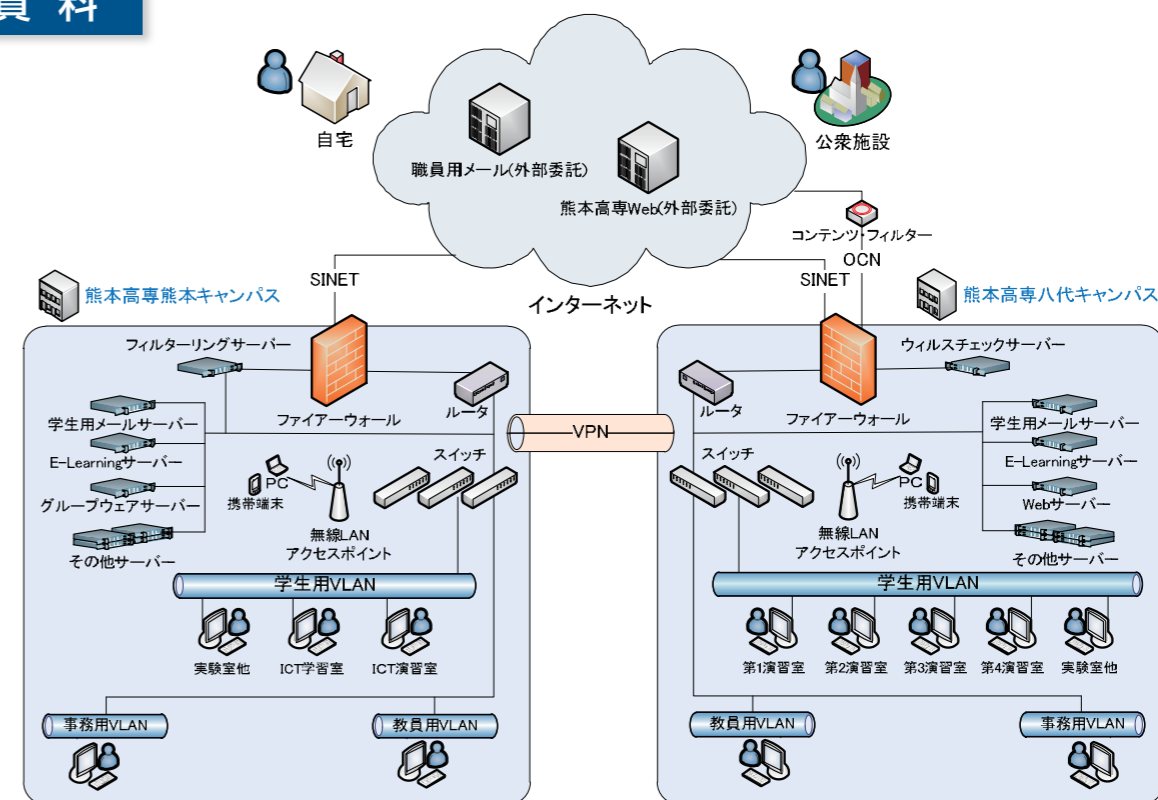
障害・メンテナンス状況

教育用システム障害・メンテナンス記録 (熊本キャンパス)

月 日	障害 / メンテナンス等	内 容	原 因	対 処
5月27日	WebClass アップデート	WebClassのアップデート (Ver9.03j)		
8月 5日	WebClass サーバと K システムのサーバのリプレース	HD障害発生のため2つのサーバのリプレースを行った	D障害	サーバのリプレース
9月14日	iPod touch から WebClass へログインできない	WebClassの携帯用、iPod touch用ログイン画面へアクセスが行えない	携帯用、iPod touch用ログインに対応していない	日本データパシフィック社にて修正
9月29日	WebClass での動画再生不良	WebClassでMozilla(Firefox) 6.0.2でwmvとmp4ファイルが見られない	Mozilla(Firefox) 6.0.2でwmvとmp4がサポートされていない	日本データパシフィック社にて Mozilla(Firefox) 6.0.2でwmvとmp4のサポートを検討予定
10月25日	WebClass のアップデート	WebClass Ver9.04cへのアップデート		
1月 4日	WebClass 用サーバ証明書の変更	ベリサインのサーバ証明書からUPKIオープンドメイン証明書へ変更		
1月20日	WebClass のメッセージの転送ができない		メールサーバの設定が原因	メールサーバを再設定
2月10日	i-Collabo.AutoRec 動作不良	ビデオ映像を編集用PCに収録時i-Collabo.AutoRecが異常終了	編集用PC立ち上げ時のHDへのアクセス過多によるi-Collabo-AutoRecのディスクアクセス遅延	編集用PCの電源を切らない、または立ち上げ後安定するまで20分程度待つ
3月28日	Content Cube の管理画面に最初のみフォルダが表示されない	Content Cubeにログイン時に、管理画面にフォルダが表示されない		Panasonic社にて対応

教育用システム障害・メンテナンス記録 (八代キャンパス)

月 日	障害 / メンテナンス等	内 容	原因	対 処
6月15日	ソフトウェアインストール作業	Windows用ウイルス対策ソフトESET NOD32のインストーラー設定, 管理ソフトのインストール		
7月15日	ソフトウェアインストール作業	Macintosh用ウイルス対策ソフトSecurity for Macのインストーラー設定, 管理ソフトのインストール		
9月12日	ソフトウェアインストール作業	プリンストン社製タブレットPTB-W1Uのドライバーをインストール		
9月22日	第四演習室	ヘッドセット8台の故障	不明	交換
9月30日	第一演習室	PC(HAL38)の故障	不明	交換
10月5日	第二演習室	PC(SAL01)の故障	不明	交換
10月7日	アカウント作成	北海学院からの外国人短期留学生のためのアカウント作成		
10月19日	第三演習室	PC(CAL01)の故障	不明	メモリの再取付
10月19日	第四演習室	PC(LL03)の故障	不明	メモリの再取付
10月24日	第一演習室	PC(HAL32)の故障	不明	メモリの再取付
10月24日	第四演習室	PC(LL37)の故障	不明	メモリの再取付
10月24日	第四演習室	ヘッドセットの故障	不明	交換
10月25日	第一演習室	SolidWorksの動作不良	不明	検証作業
10月31日	第一演習室	PC(HAL25, HAL41)の故障	不明	メモリの再取付
10月31日	IO サーバ	第四演習室PCの起動不良	不明	再起動
11月8日	ウイルス定義ミラーサーバ	ウイルス定義ファイルの更新		
11月12日	IO サーバ	第一演習室のディスクイメージと第二演習室のディスクイメージのスワップ作業		
11月14日	第四演習室	PC(LL28)の故障	不明	メモリの再取付
11月17日	IO サーバ	第一演習室のディスクイメージと第二演習室のディスクイメージを共用出来るように調整		
12月1日	ソフトウェアインストール作業	Macintosh用ウイルス対策ソフトESET NOD32のインストーラー設定		
12月9日	第一演習室	PC(HAL34, HAL46)の故障	不明	電源コンセントの再取付
1月10日	第一演習室	PC(HAL41)の故障	不明	メモリの再取付
1月10日	第四演習室	PC(LL45)の故障	不明	メモリの再取付
1月10日	第四演習室	PC(LL27)のCalaboEXでの動作不良	不明	USBコネクタの再取付
1月11日	第二演習室	PC(SAL44)の故障	不明	メモリの再取付
1月16日	第一演習室	PC(HAL35)の故障	不明	メモリの再取付
1月16日	第一演習室	PC(HAL28)の故障	不明	交換
1月19日	第四演習室	PC(LL11)のCalaboEXでの動作不良	不明	交換
2月7日	ドメインコントローラー	定期試験時の特定アカウントの一時無効化		
3月7日	IO サーバ	次年度に向けて, 全演習室のディスクイメージにwindows updateの更新作業		
3月20日	IO サーバ	次年度に向けて, 演習室のディスクイメージへのソフトのインストール, アンインストール作業		
3月24日	IO サーバ, ファイルサーバー	次年度に向けて, SolidWorksのアップデート作業およびアカウント作成準備, ファイルサーバーのバックアップ		
3月31日	ドメインコントローラー, ファイルサーバー	次年度に向けて, アカウント作成作業		



ネットワーク概略図

熊本キャンパス新設備



ICT活用学習支援センター外観



図書館閲覧室



ICT活用学習ルーム



グループ学習室

資料

H23年度 演習室インストールソフトウェア一覧 (八代キャンパス)

	ソフト	バージョン	第1演習室	第2演習室	第3演習室	第4演習室	使用授業
1	adobe reader	8	○	○	○	○	
2	Arduino	18	○	○	○	○	複合工学セミナー
3	bsch3v		○	○	○		5M回路設計、複合工学セミナー
4	Calabo EX					○	
5	Common SQL Environment	ver1.59	○	○	○		5Eデータベース
6	Delphi 6 Personal Edition		○	○	○		基礎セミナー
7	DOGA-E		○	○	○		E科セミナー
8	EAGLE	4.16r2	○	○	○		1E基礎セミナー
9	Eclipse	3.2	○	○	○		基礎セミナー
10	ESET NOD32	4	○	○	○	○	
11	ezhtml	7.6	○	○	○	○	5Mコンピュータネットワーク
12	ffftp		○	○	○	○	
13	flash player		○	○	○	○	
14	gcc developer light	2.0.1.3r5	○	○	○		ロボコン部
15	Iconworks		○	○			基礎セミナー
16	ieseteditor	1.05	○	○	○		5Mコンピュータネットワーク
17	ifgif	0.12	○	○	○		5Mコンピュータネットワーク
18	ifpng	0.61	○	○	○		5Mコンピュータネットワーク
19	Illustrator CS	14			○		
20	infocasl	2.0.10	○	○	○		4Eコンピュータ言語
21	inkscape	0.46	○	○	○		E科セミナー
22	java SDK	6 Update18	○	○	○	○	基礎セミナー
23	JWCAD	6.01	○	○	○	○	
24	lhaca デラックス版		○	○	○	○	
25	Mathtype				○		
26	Matlab4.2		○	○			5M構造計算力学、S2数値設計工学 5Mロボット工学
27	Matlab5.3				○		5M構造計算力学、S2数値設計工学 5Mロボット工学
28	Matx VisualC++2005	5.5.37	○	○	○	○	5M制御工学
29	Microsoft Office Professional Plus 2007		○	○	○	○	
30	MPLAB	7.6	○	○	○		5M回路設計、複合工学セミナー
31	PCBE	0.48	○	○	○		5M回路設計、複合工学セミナー
32	Photoshop Elements6				○		3C設計製図 5Bプレゼンテーション技法
33	pictbear		○	○	○		
34	processing	0.9	○	○	○	○	
35	Qtcreator		○	○	○		オープンキャンパス
36	Robolab	2.9.4	○	○	○		1MIものづくり実習I
37	rs232c		○	○	○		1MIものづくり実習
38	scilab	5.12	○	○	○		5Mロボット工学、(4M総合実習)
39	securelockware	2.62	○	○	○		
40	SolidWorks2009		○	○	○		1MIものづくり実習、1MI製図基礎 2MI製図基礎、4M設計製図、5M総合設計、 5M構造計算力学
41	Symantec Virus Software		○	○	○	○	
42	truecrypt	6.3a			○		
43	UTF-8 teraterm pro		○	○	○	○	
44	VID管理ツール(クライアント)		○	○	○	○	
45	VIDメンテナンスツール(クライアント)		○	○		○	(学生用 PC)
46	VIDメンテナンスツール(サーバ)		○	○	○		(学生用 PC) (教師用 PC)
47	VisualBasic6.0		○	○	○		2MI情報基礎、3MVBセミナー、4M応用情報処理、 5Mコンピュータ計測
48	VisualStudio2008		○	○	○	○	2MI情報基礎、3MVBセミナー、4M応用情報処理、 5Mコンピュータ計測
49	WinAVR + AVRStudio4		○	○	○	○	
50	リモートセンシング解析ソフト ReDAPPC	2.2	○	○	○		5Cリモートセンシング
51	一言メモ		○	○	○	○	3M応用情報処理、5Mコンピュータネットワーク
54	立体グリグリ	3.3	○	○	○		1MI製図基礎

資料

H23年度 前期 ICT 演習室時間割 (八代キャンパス)

曜日	時間	第1演習室	第2演習室	第3演習室	第4演習室
月	1		回路設計 5M 村山		英語補講 専12 岩下
	2	設計製図 4M 田中禎	データベース 5E 村田		英語IV 4C 関
	3	コンピュータ言語 4E 米沢			
	4		応用情報工学 専1 池田	複合工学I 45全 磯谷他	英応セ 34全 関
	放課後		情報システム研究部		
火	1	ネットワーク入門 2MI 藤本	情報処理 4B 村田		
	2	製図基礎I 1MI 田中裕	製図基礎II 2MI 井山		英語IV 4M 岩下
	3	基礎情報工学 2MI 米沢他	応用情報処理 4C 藤野	ソフトウェア工学 5E 小島	プログラミング基礎 3E 村田美
	4				
	放課後				
水	1	応用情報処置 4M 宮本	コンピュータネット 5M 小田	構造計算力学 5M 田中裕	上級英語 専1 宇ノ木
	2	情報基礎 1AC 磯谷他	基礎情報工学 2AC 米沢他		英語IV 4B 岩下
	3	ネットワーク 5E 藤本	創造演習 1AC 藤野他	ものづくり実習 1MI 河崎他	英語IV 4E 関
	4	E科セミナー 岩崎		ものづくり実習 1MI 河崎他	
	放課後		情報システム研究部		
木	1		設計製図 3M 福田	情報信号処理 専1 池田	英語V 5選 宇ノ木
	2	ネットワーク入門 2AC 藤本	コンピュータ計測 5M 開	コンパイラ 5E 小島	
	3	応用情報処理 3M 小田	プログラミング言語 5E 米沢	リモートセンシング 5C 斉藤	
	4	情報基礎 1BC 赤石他	ネットワーク入門 2BC 藤本		コンピュータシステム 4E 池田
	放課後		情報システム研究部		
金	1	情報基礎 1MI 磯谷他	数理解析 5M 開		技術英語I 5E 森内
	2	プログラミング 4E 岩崎	基礎工学演習 専1 井山	プレゼンテーション 5B 中島	データ構造… 5E 池田
	3	基礎情報工学 2BC 米沢他	システム工学 5E 森内		
	4	E科セミナー 岩崎	総合設計 5M 豊浦		
	放課後		情報システム研究部		

H23年度 後期 ICT 演習室時間割 (八代キャンパス)

曜日	時間	第1演習室	第2演習室	第3演習室	第4演習室
月	1		総合設計 5M 田中裕		英語III 3E 高木
	2	設計製図 4M 田中禎	データベース 5E 村田	地形情報処理 5C 久保田	英語III 3C 関
	3	データ解析 専1 大河内他	機械総合実習 3M 村山他		
	4	デジタルシステム 専2 池田	機械総合実習 3M 村山他	複合工学I 45全 磯谷他	進セ英 45全 高木
	放課後		情報システム研究部		
火	1		情報処理 4B 村田	コンピュータネット 5M 小田	
	2	製図基礎I 1MI 田中裕	製図基礎II 2MI 井山		英語III 3B 高木
	3	基礎情報工学 2MI 米沢他	応用情報処理 4C 藤野	ソフトウェア工学 5E 小島	
	4				
	放課後				
水	1	数理解析 5M 開	設計製図 3M 井山		スピーチ 専2 岩下
	2	情報基礎 1AC 磯谷他	基礎情報工学 2AC 米沢他		英語IV 4全 英語科
	3	マイコン入門 2BC 藤本他	応用情報処理 4M 宮本	ものづくり実習 1MI 河崎他	英語III 3M 関
	4			ものづくり実習 1MI 河崎他	
	放課後		情報システム研究部		
木	1	マイコン入門 2AC 藤本他	応用情報処理 3M 小田	リサイクル力学 5M 井山	英語補講 専12 関
	2	マイコン入門 2MI 藤本他			科学技術英語 専2 湯治
	3		コンピュータ言語 4E 米沢	設計演習 3C 下田他	英語V 5選 宇ノ木
	4		コンピュータシステム 4E 池田		
	放課後		情報システム研究部		
金	1	情報基礎 1MI 磯谷他		データ構造 5E 池田	
	2	プログラミング 4E 岩崎	基礎工学演習 専1 井山	構造計算力学 5M 田中裕	
	3	基礎情報工学 2BC 米沢他	M総合実習 4M M科教員		
	4	基礎情報工学 1BC 米沢他	M総合実習 4M M科教員	コンパイラ 5M 小島	
	放課後		情報システム研究部		

WebClass 利用状況 (熊本キャンパス)

人間情報システム工学科 小松 一男

平成22年11月に熊本キャンパスで行われましたWebClassおよびKシステムに関するアンケート結果をまとめました。

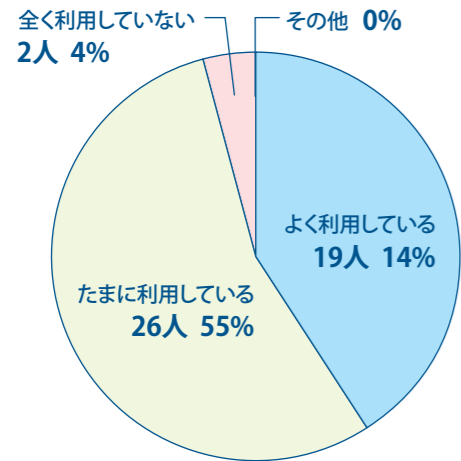
アンケート方法

- (1) 教員用アンケート (全教員63名中47名回答、回答率75%)
WebClassのアンケートを11月8日(月)～11月26日(金)までの期間に、WebClassにより行った。
- (2) 学生用アンケート (全学生868名中738名回答、回答率85%)
WebClassのアンケートを11月8日(月)～11月26日(金)までの期間に行った。

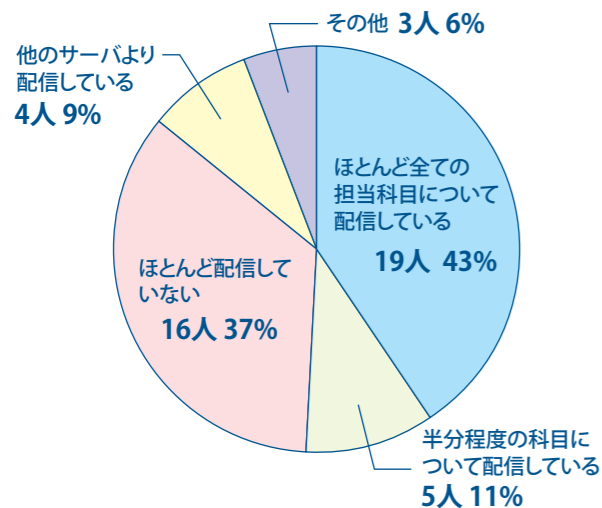
アンケート結果

●教員対象WebClassに関するアンケート結果 (全教員63名中47名回答、回答率75%)

設問1. WebClassをよく利用していますか?



設問2. 担当科目の前年度定期試験問題とその解答をWebClassにより配信していますか?

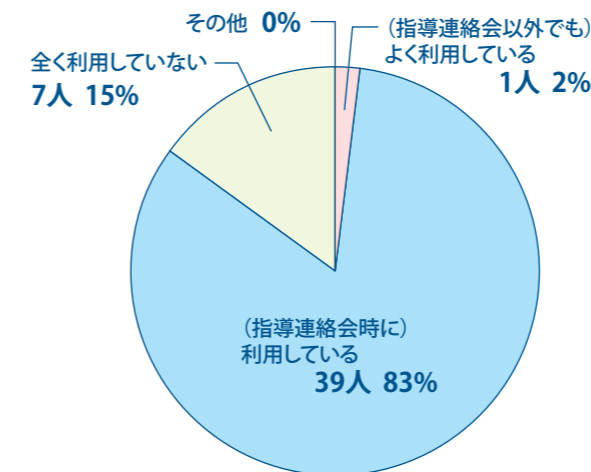


設問3. WebClassを利用した学習参考資料、課題提示、レポート提出、小テスト等の教材コンテンツの作成状況について、その科目名と内容を簡単に記入してください。また、教員専用ページで作成されている場合は[教員専用ページ]と明記してその科目名と内容を記入してください。

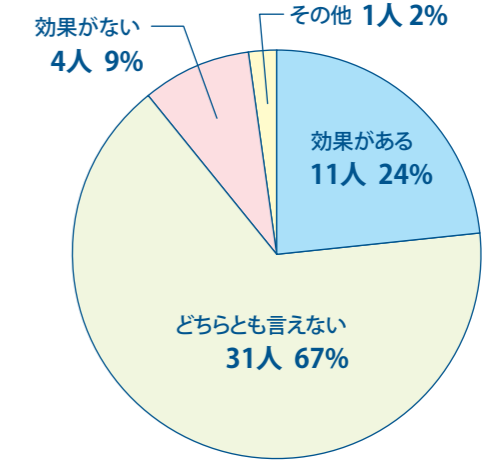
- 28名の回答内容 (28名が教材コンテンツ作成済み)
- ・CI-1年 基礎電気学: 学習参考資料、課題提示、テストと課題の解答例などを作成
 - ・C-2 情報処理: 課題提示、テストと課題の解答
 - ・ロボット工学: レポート課題のプログラムの提出
 - ・プログラム言語特論: レポート、演習課題のプログラムの提出
 - ・就職関連情報の提供: 求人票
 - ・HR、保護者懇談会、研修旅行、クラス説明等での使用資料の提供
 - ・ヒューマンメディア工学
 - ・応用プログラム1
 - ・応用プログラム2
 - ・ネットワーク工学特論
 - ・電磁気学 (3, 4年): ビデオによる教科書の解説
 - ・英語: 学習参考資料提示、プリントを配布している演習問題の解答
 - ・電子工学I、II: 四半期ごとに課すレポート課題の提示、講義ノートの公開
 - ・電子材料I、II: 四半期ごとに課すレポート課題の提示
 - ・電子工学演習II、IV: レポートの模範解答
 - ・数値計算: 自作テキストの配信およびレポート提出に使用
 - ・システム制御理論: レポート課題配信とレポート提出に使用
 - ・1年生および2年生の化学: 学習参考資料、問題集の解説、各単元のまとめ、試験問題
 - ・TE1 基本情報処理: 課題提示とレポートの提出、定期試験
 - ・T2 情報処理: 学習参考資料、課題提示、レポート提出、小テスト等のコンテンツ
 - ・I4 計算機工学
 - ・I5 マルチメディア活用論
 - ・I5 実験: 資料配信、レポート提出、(独自の) 授業アンケート等
 - ・コンピュータアーキテクチャ: 学習参考資料 (パワーポイントの内容を公開している)
 - ・情報通信工学実験: 工学実験のテキストや資料
 - ・ヒューマンインタフェース技術: 講義PPT資料
 - ・計算機工学: 講義PPT資料
 - ・ハードウェア設計論: 授業で使用したppt資料をUP、課題提示、レポートのアップロード

- ・数学: 課題提示、試験解答例提示
- ・3年情報工学実験: テキスト、レポート提出
- ・3年プログラミング演習: テキスト、レポート提出、小テストの解答例の提示
- ・情報2年情報処理: 課題の解答例の提示
- ・プログラミング特論I: 課題提示、課題提出
- ・プログラミング特論II: 課題提示、課題提出
- ・情報4年情報工学実験(ソフト): 課題提示、レポート提出、ピアレビュー
- ・2年情報処理: 課題の提示とレポートの提出(アップロード)
- ・3年プログラミング通論: 課題の提示とレポートの提出(アップロード)
- ・5年画像処理: 課題の提示とレポートの提出(アップロード)、および資料の配布
- ・5年メディア工学: 課題の提示とレポートの提出(アップロード)、および資料の配布
- ・計算機工学(I3): レポート提出
- ・数理情報工学(I5): レポート提出、提出状況開示
- ・離散数学(AC1): 講義資料配付
- ・I4クラス連絡用: 各種連絡、アンケート
- ・2年基礎電気学: 学習参考資料、演習課題の回答例提示
- ・電気回路学: 学習参考資料、演習課題の回答例提示
- ・オペレーティングシステム: 学習参考資料、演習課題の回答例提示
- ・数学(1, 2年): 小テストと解答、課題と解答
- ・応用数学(4年): 小テストと解答、課題と解答、編入試験問題例と解答
- ・TE1 ものづくり基礎: 学習参考資料、レポート提出
- ・E2 情報処理: 学習参考資料、レポート提出
- ・E4 計算機工学: 学習参考資料、レポート提出、自己学習
- ・C3 プログラミング演習: 課題提示、レポート提出、得点および解答等の公開
- ・C3 電子制御工学演習: 授業で使用したスライドの公開

設問4. Kシステムの利用頻度について

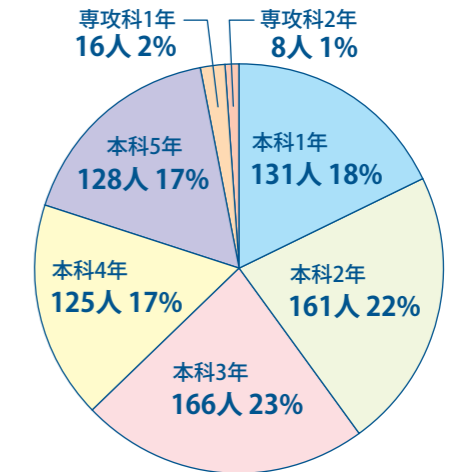


設問5. Kシステムの教育効果についてどう思われますか? (従来の紙媒体での指導連絡票との比較を含む)

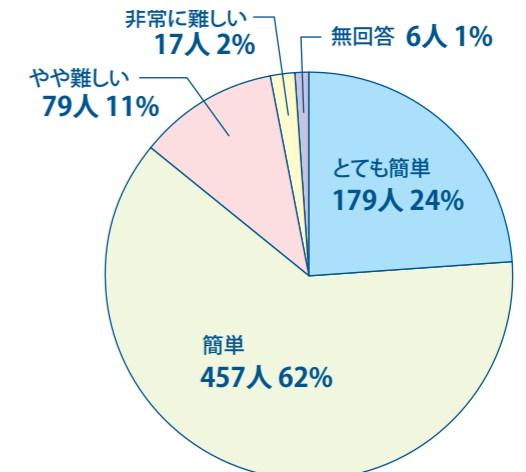


●学生対象WebClassに関するアンケート結果 (全学生868名中738名回答、回答率85%)

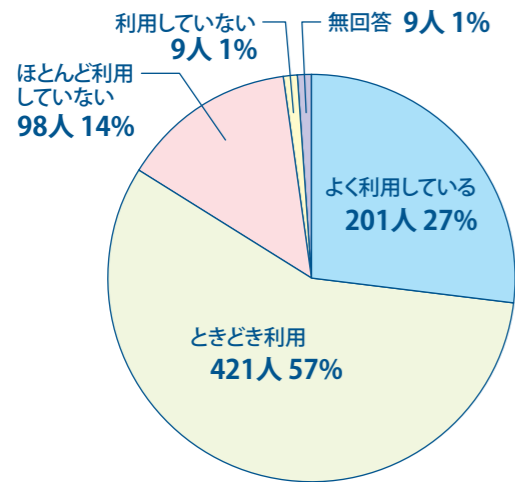
設問1. 学年を選択してください。



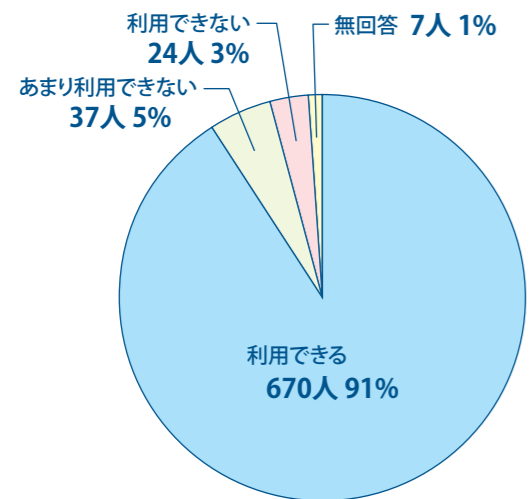
設問2. WebClassの操作法は難しいですか?



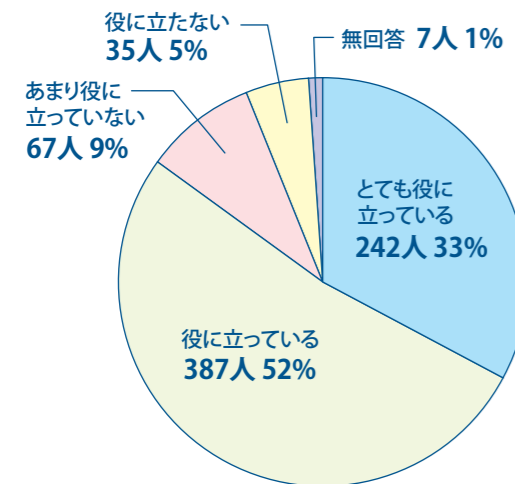
設問3. WebClassを利用していますか？



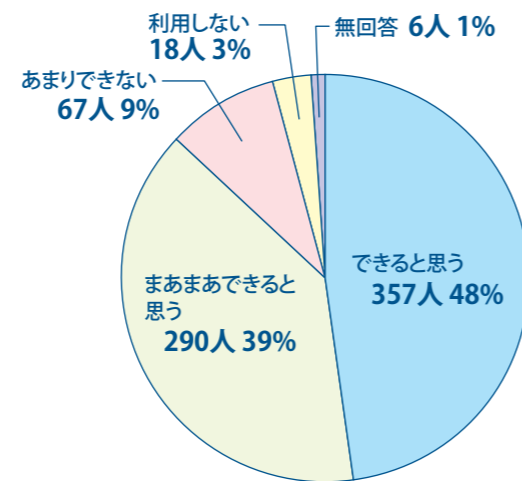
設問4. 自宅からWebClassが利用できますか？



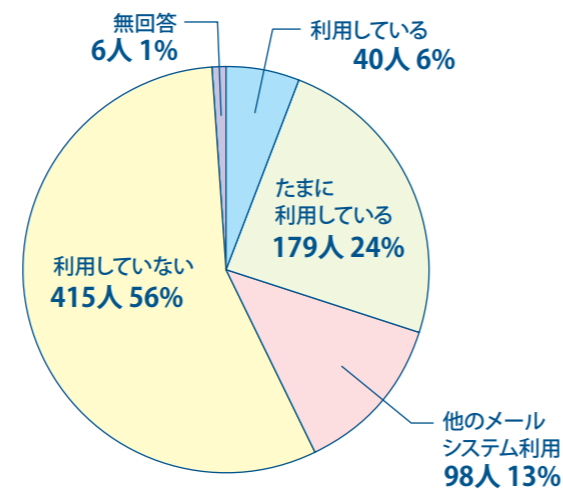
設問5. WebClassを利用した学習テキスト、課題や資料提示、レポート提出、小テスト実施等の教材コンテンツが学校や自宅などでの自学自習に役に立っていますか？



設問6. WebClassを利用した上記の教材コンテンツが充実した場合、自学自習を今よりも積極的に取り組めると考えますか？



設問7. WebClassの掲示板やメール機能を利用した先生とのコミュニケーションについて



資料

Webclass H23 年度 コースごとのコンテンツ利用状況 (八代キャンパス)

学年	クラス	コース名	コンテンツ種類			
			資料	テスト/アサート	ユニット	会議室
1	ALL	情報基礎	○	○		○
1	ALL	数学基礎定着セミナー b	○	○		
1	AC	創造演習	○	○		
2	ALL	ネットワーク入門	○	○		
2	YE	ホームルーム_2E	○			
2	ALL	マイコンプログラミング入門	○	○		○
2	BC	英語II		○		
2	BC	化学基礎	○	○		
2	ALL	基礎情報工学	○			
2	YB	情報基礎2			○	
2	YE	情報工学基礎演習	○	○		
2	YB	生物基礎2		○	○	
2	BC	生物工学実習	○			
3	YE	コンピュータ工学基礎	○			
3	YB	バイオ基礎化学	○	○		○
3	ALL	プログラミング基礎	○	○	○	○
3	BC	ホームルーム_3BC	○			
3	YE	ホームルーム_3E	○	○		
3	AC	メディア造形	○			
3	YC	英語III		○		
3	YB	化学系基礎実験	○			
3	YE	情報通信工学基礎	○	○		○
3	YB	分析化学	○			
4	YE	プログラミング	○	○		○
4	ALL	英語IV		○		
4	YB	基礎物理化学		○		
4	YM	機械電気総合実習	○			
4	YB	情報処理	○	○		
4	YE	情報電子工学実験	○	○		
4	YB	生物化学基礎実験	○			
4	YB	創造実験	○			
4	ALL	複合工学セミナー I	○			
4	YB	分析化学	○			
4	YB	有機化学	○			
5	YE	コンパイラ	○	○		
5	YE	ソフトウェア工学	○	○	○	
5	YE	データベース	○	○		
5	YE	データベース	○	○		
5	YE	ネットワーク	○	○		○
5	YE	ホームルーム_5E	○			
5	YM	ロボット工学	○			
5	YB	化学物質セミナー	○			
5	YE	課題研究		○		
5	YB	課題研究_田浦研	○			
5	YM	回路設計	○	○	○	
5	YB	環境科学	○	○		
5	YB	高分子化学	○			
5	YB	生物工学関連法規	○			
5	ALL	複合工学セミナー I	○			
専1	YC	データ解析	○	○		
専1	YB	環境分析技術	○			
専2	YM	スピーチコミュニケーション		○		
職員		WebClass Template Course		○		
職員		教員専用クラス	○			○
職員		国際プロコン (Robocode)	○			

平成23年度 八代キャンパス ICT活用学習支援センター演習室の利用状況

機械知能システム工学科 村山 浩一

1. 演習室の環境について

ICT活用学習支援センター八代キャンパスでは、第一演習室から第四演習室までの四演習室で計187台のPCが設置されており、これらのPCは保守や管理の面を考慮して、ネットワーク起動型のディスクレスシステムであるVID (Virtual Image Distributer) システムによって運用されている。

資料2において示した通り、すべての演習室にOFFICE等の基本的なアプリケーションはもちろんのこと、

表1 演習室のPCについて

	PC機種	CPU	メモリ	台数
第一演習室	DELL OptiPlex745	Core2Duo 1.86GHz	2GB	54
第二演習室	同上	同上	同上	50
第三演習室	同上	同上	同上	32
第四演習室	DELL OtiPlex755	Core2Duo 2.33GHz	同上	51

※台数は第一～第三演習室は2台、第四演習室は1台の教員用PCを含む

2. 各演習室の利用状況について

演習室ごとの月別の利用状況について、ログイン回数をまとめたものを表2に示す。なお開発用端末とは、演習室の各PCのハードディスクイメージを更新するためのPCでサーバー室に設置されている。

一台あたりのログイン数で見ると、第二演習室が最も利用頻度が高く、第四演習室が最も低いという結果だった。第四演習室は、CALLシステムがインストール

表2 各演習室の月別ログイン回数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	一台あたり
第一演習室	2406	2093	2169	2078	1031	525	2158	1543	1800	1970	1367	97	19237	356.2
第二演習室	1835	1849	2524	2348	1123	931	2417	1587	1504	1398	1153	337	19006	380.1
第三演習室	1013	1114	823	718	672	168	911	713	907	839	689	7	8574	267.9
第四演習室	1044	1009	1163	1190	274	296	1488	1186	1306	1212	719	0	10887	213.5
開発用端末	4	5	7	0	4	15	0	10	2	0	0	61	108	36.0
計	6302	6070	6686	6334	3104	1935	6974	5039	5519	5419	3928	502	57812	304.3

VisualStudioやarduinoと言ったプログラム開発環境がインストールされており、低学年のリテラシー教育だけではなく、高学年の専門科目の授業にも積極的に利用されている。特に第四演習室にはCHJeru社のCALLシステムであるCalaboEXがインストールされており、主に英語科の授業でも活用されている。

各演習室に設置しているPCの機種や台数について表1に示す。

されていることから、英語科が優先的に利用できるように配慮しており、授業の割当数が少ないことが原因と思われる。

月別で見ると、主に授業がおこなわれている月では5000～7000/月の割合でログインがされており、もっともログイン回数が多かった月は10月、最も少なかった月は3月であった。

3. 各学科の利用状況について

クラスごとの月別の利用状況について、ログイン回数をまとめたものを表3に示す。

学科別で見ると、ログイン回数の合計ではMI・M科が一番多いが、クラス数を考慮した場合はE科が

最もログイン頻度が高かった。次にクラス別で見ると、2MIのログイン回数が最も多かった。これは3D CADを利用した授業がおこなわれており、課題等で授業時間以外にも演習室を利用する学生が多いためではないかと思われる。

表3 各クラスの月別ログイン回数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
1MI	796	499	211	332	122	68	353	162	287	283	259	31	3403
2MI	448	316	546	443	213	179	562	387	599	555	419	55	4722
3M	155	155	416	323	109	154	694	517	522	366	265	2	3678
4M	310	317	331	577	195	63	322	259	250	304	452	55	3435
5M	255	460	609	840	260	31	160	74	256	173	155	0	3273
M・MI科合計	1964	1747	2113	2515	899	495	2091	1399	1914	1681	1550	143	18511
3E	339	273	398	399	138	245	645	408	441	517	273	109	4185
4E	468	642	632	501	211	139	432	223	189	475	187	74	4173
5E	582	512	600	510	223	118	407	342	338	328	113	1	4074
E科合計	1389	1427	1630	1410	572	502	1484	973	968	1320	573	184	12432
1AC	487	688	266	236	86	84	290	155	189	122	213	32	2848
2AC	277	280	488	337	233	91	419	342	402	334	221	10	3434
3C	87	0	5	9	33	23	282	199	268	387	248	5	1546
4C	275	251	244	284	25	88	177	208	133	109	71	0	1865
5C	13	13	62	98	35	2	23	125	53	61	29	1	515
AC・C科合計	1139	1232	1065	964	412	288	1191	1029	1045	1013	782	48	10208
1BC	454	358	184	187	49	54	223	99	149	135	199	11	2102
2BC	254	301	425	332	177	112	508	369	395	389	278	3	3543
3B	56	25	20	27	71	13	211	173	202	212	15	2	1027
4B	288	386	440	356	155	8	368	337	344	253	137	10	3082
5B	67	124	108	124	49	20	76	10	8	11	53	2	652
BC・B科合計	1119	1194	1177	1026	501	207	1386	988	1098	1000	682	28	10406
1AP	203	346	504	316	134	54	235	279	285	241	198	11	2806
2AP	26	13	70	16	5	37	114	158	127	87	75	0	728
専攻科合計	229	359	574	332	139	91	349	437	412	328	273	11	3534
短期留学生	0	0	0	0	0	0	35	18	25	16	0	3	97
ゲスト	262	8	21	21	531	206	328	77	0	0	35	2	1491
教職員	83	92	98	66	46	54	110	56	52	57	33	29	776
管理者	117	11	8	0	4	92	0	62	5	4	0	54	357
ログイン合計	6302	6070	6686	6334	3104	1935	6974	5039	5519	5419	3928	502	57812

4. 学年ごとの利用状況について

学年ごとの月別の利用状況について、ログイン回数をまとめたものを表4に示す。

合計だと4年生が一番多いが、クラス数を考慮すると、2年生が最もログイン頻度が高いことが分かった。新学科の1,2年生については、旧学科の3年生以上とは

授業カリキュラムが異なり、ICT科目が大幅に増えていることが主な要因と考えられる。その他の特徴的な点として、1年生は年度当初の4、5月のログイン回数が非常に多く、それ以後は大きく減るのに対し、2、3年生は主に前期よりも後期の方が、ログイン回数が多いということが挙げられる。

表4 各学年の月別ログイン回数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
1年生	1737	1545	661	755	257	206	866	416	625	540	671	74	8353
2年生	979	897	1459	1112	623	382	1489	1098	1396	1278	918	68	11699
3年生	637	453	839	758	351	435	1832	1297	1433	1482	801	118	10436
4年生	1341	1596	1647	1718	586	298	1299	1027	916	1141	847	139	12555
5年生	917	1109	1379	1572	567	171	666	551	655	573	350	4	8514
合計	5611	5600	5985	5915	2384	1492	6152	4389	5025	5014	3587	403	51557

5. 放課後の利用状況について

放課後の月別の利用状況について、17時以降にログインされた回数をまとめたものを表5に示す。

平成23年度の17時以降のログイン回数の延べ数は2392回で、一日あたりにすると6.6回であった。月別で見ると1月が332回で最も多く、逆に3月は22回で極端に少なかった。3月は主に春休み期間中であり授業が無いこと、および演習室の年度更新の作業等で利用出来

ない期間もあるためだと思われる。

演習室ごとで見ると、第二演習室のログイン回数が最も多く、第一演習室に比べて約二倍、第三、第四演習室と比べて約三倍も放課後の利用が多かったことが分かった。これは、ICTセンターの入口に近いという場所的な理由の他に、システム情報研究部の活動場所としても使われていることも要因であると思われる。

表5 各演習室の月別ログイン回数(17時以降)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	一日あたり
第一演習室	72	27	39	42	29	13	79	24	41	104	66	1	537	1.5
第二演習室	30	34	118	105	49	108	235	85	90	116	77	17	1064	2.9
第三演習室	52	48	20	20	19	4	35	38	63	46	40	4	392	1.1
第四演習室	61	33	42	42	12	11	32	37	30	63	36	0	399	1.1
計	215	142	219	209	109	136	381	184	224	332	219	22	2392	6.6

6. 図書館・寮設置のPCの利用状況について

演習室が利用出来ない時間帯やパソコンを持っていない寮生のために、図書館に11台、八龍寮(男子寮)に4台、夕葉寮(女子寮)に3台のPCを設置し、ICT活用学習支援センターで管理している。いずれのPCも、演習室のディスクレスシステムとは異なり通常のPCであるが、演習室のドメインに参加するような設定がされているため、ログインすると演習室のPCと同様に個人用のフォルダや課題、提出フォルダがマウントされ、自由に

アクセスが可能である。これらのPCの利用状況について、ログイン回数をまとめたものを表6に示す。

図書館に設置しているPCについて、授業がおこなわれている期間は、約200回/月の回数で利用されていることが分かった。寮に設置しているPCについて見ると、男子寮生数は女子寮生数の約4倍も多いのに対して、ログイン回数では女子寮生の方が約10倍も多く、積極的に活用されていることが分かった。

表6 図書館・寮PCの月別ログイン回数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
図書館	※	129	188	200	157	61	238	207	130	214	202	98	1824
八龍寮(男子寮)	22	38	16	25	16	2	30	29	4	5	6	1	194
夕葉寮(女子寮)	79	186	206	197	133	45	234	170	123	223	164	42	1802

※ログイン記録を取り始めたのが2011/5/16からのため、4月は記録無し

資料

図書館統計(平成23年度熊本キャンパス)

入館者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	4168	4154	7270	6785	2909	1325	1881	2456	1553	2507	3334	1013	39355

蔵書数	和書	洋書	合計
	69269	3255	72524

分野別貸出冊数 日本十進分類法(NDC)	0 総記	1 哲学	2 歴史	3 社会科学	4 自然科学	5 技術, 工学	6 産業	7 芸術, 美術	8 言語	9 文学	その他	合計
	493	147	44	424	504	1124	76	246	1191	1166	37	5452

月別貸出冊数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	669	601	574	724	315	276	394	302	488	416	490	203	5452

図書館統計(平成23年度八代キャンパス)

入館者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	2399	2440	4789	4452	2585	1004	2781	4534	1877	2654	4106	1213	34834

蔵書数	和書	洋書	合計
	57112	2353	59465

分野別貸出冊数 日本十進分類法(NDC)	0 総記	1 哲学	2 歴史	3 社会科学	4 自然科学	5 技術, 工学	6 産業	7 芸術, 美術	8 言語	9 文学	その他	合計
	103	170	90	377	441	474	22	206	301	3165	73	5422

月別貸出冊数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	496	601	579	485	522	286	688	337	587	310	402	129	5422

施設見学者一覧(熊本キャンパス)

月	日	見学者	人数
3	26	熊本大学	1
4 (H24年度)	5	NHK 職員	1
4 (H24年度)	23	株式会社日総建	2

施設見学者一覧(八代キャンパス)

月	日	見学者	人数
8	26	高専機構本部	3
9	16	高専機構本部	1
3	2	高専機構本部	1

平成23年度 活動一覧

月	日	活動内容
4		熊本キャンパス新入生対象 WebClass の導入教育
4	15	熊本キャンパス 2011 年度 K システム (学生カルテシステム) の登録
4	27	第 1 回 ICT 活用学習支援センター八代キャンパス委員会会議
4		学内メーリングリストの新システムでの運用開始
5	25	第 2 回 ICT 活用学習支援センター八代キャンパス委員会会議
5	26	第 1 回 ICT 活用学習支援センター運営委員会会議
6		熊本キャンパス 3 号棟への無線 LAN アクセスポイント増設
6	29	第 3 回 ICT 活用学習支援センター八代キャンパス委員会会議
7	27	第 4 回 ICT 活用学習支援センター八代キャンパス委員会会議
7		トレンドマイクロ社の Trend Micro Security for Mac の導入 (八代キャンパス)
8	1	八代キャンパス「図書館だより」第 42 号発行
8	3	コンテンツ制作ソフト「ThinkBoard」講習会 (八代キャンパス)
8	24,25	高等専門学校情報処理教育研究発表会参加 (鹿児島大学)
8	27,28	平成 23 年度中学校サマーセミナー (八代キャンパス)
8		八代キャンパス第 4 演習室の改修
8		八代キャンパスインターネット引き込み口の移設
8		高専シンポジウム用のサーバ設置
8		熊本キャンパス ICT センター改修に伴う学生課・図書館の一時移設のための LAN 調整
8	29	熊本キャンパス教員研修会にて動画教材作成システム i-Collabo.AutoRec の講習会
9	5~7	熊本シニアネット八代支部会員への「EXCEL 入門」セミナー
9	21	第 5 回 ICT 活用学習支援センター八代キャンパス委員会会議
9	26,27	熊本キャンパス第 1 回校内 LAN 仕様策定委員会
10	1	熊本キャンパス web フィルタリング (iFilter) 導入
10	3~5	社会人講座「EXCEL 2007 入門」(八代キャンパス)
10	23	平成 23 年度熊本県中学校プログラミングコンテスト (八代キャンパス)
10	26	第 6 回 ICT 活用学習支援センター八代キャンパス委員会会議
10		八代キャンパス八龍寮の食堂への無線 LAN アクセスポイント 3 台設置
10		八代キャンパスオリジナル授業用マイコンボードの導入 (150 台)
11		熊本キャンパス ICT 演習室・自習室の PC 仕様策定
11	28	第 7 回 ICT 活用学習支援センター八代キャンパス委員会会議
11		図書データベースシステムの更新
12		熊本キャンパス 1 号棟教室内カメラの設定
12	21	第 8 回 ICT 活用学習支援センター八代キャンパス委員会会議
12		ESET NOD 32 アンチウイルス Mac 版の導入・運用 (八代キャンパス)
1	16,17	熊本キャンパス第 2 回校内 LAN 仕様策定委員会
1	25	第 9 回 ICT 活用学習支援センター八代キャンパス委員会会議
2	17	第 2 回 ICT 活用学習支援センター運営委員会会議
2	24	第 10 回 ICT 活用学習支援センター八代キャンパス委員会会議
2		八代キャンパスの全学科で使用可能なノートパソコンを 6 台増設 (合計 25 台)
2		図書データベース検索専用パソコンの設置 (2 台、八代キャンパス)
2	1	熊本キャンパス図書館だより「くぬぎの森」発行
2	23	熊本キャンパスストリーミング配信管理システム Content Cube の導入と管理者講習会
2		熊本キャンパス 1 号棟への無線 LAN アクセスポイント増設
2	27~3/1	熊本キャンパス IT 講習会
3	1	八代キャンパス「図書館だより」第 42 号増刊号発行
3	7,8	熊本キャンパス第 3 回校内 LAN 仕様策定委員会
3	22	熊本キャンパス認証サーバ設置
3	22	第 11 回 ICT 活用学習支援センター八代キャンパス委員会会議
3	26	熊本キャンパス ICT センター LAN 復旧のための機器設置・設定
3	27	第 3 回 ICT 活用学習支援センター運営委員会会議
3	28	熊本キャンパス ICT 演習室・自習室への PC 設置
3		新認証システムの導入
3		ネットワークトラフィックモニターシステムの運用開始 (八代キャンパス)
3		八代キャンパス専門棟 4F 西側へ無線 LAN アクセスポイント 2 台設置
3		グローバル IP アドレス (一部) の JPNIC への返却
3		八代キャンパス図書館ブックディテクションシステムの更新
4~3		セキュリティ対策とサーバ運用
4~3		教育用システムの保守・運用
4~3		情報コンセント追加および設置変更
4~3		図書データベース作成のためのデータ入力作業

◆ICT活用学習支援センタースタッフ

センター長	米沢 徹也 (八代キャンパス共通教育科)
副センター長	三好 正純 (人間情報システム工学科)
学術情報活用支援事業部長	藤本 洋一 (ICT 活用学習支援センター)
学術情報活用支援事業副部長	三好 正純 (人間情報システム工学科)
ICT 基盤整備事業部長	石原 秀樹 (熊本キャンパス共通教育科)
ICT 基盤整備事業副部長	小島 俊輔 (ICT 活用学習支援センター)
協調学習支援事業部長	村山 浩一 (機械知能システム工学科)
協調学習支援事業副部長	石原 秀樹 (熊本キャンパス共通教育科)
ICT 教育改善事業部長	小松 一男 (人間情報システム工学科)
ICT 教育改善事業副部長	村田美友紀 (生物化学システム工学科)
熊本キャンパス図書館	緒方 貞蔵 (学生課図書係)
八代キャンパス図書館	光永 清司 (学術情報係長)

◆ICT活用学習支援センター運営委員会委員

熊本キャンパス	八代キャンパス
三好 正純 (人間情報システム工学科)	米沢 徹也 (八代キャンパス共通教育科)
石原 秀樹 (熊本キャンパス共通教育科)	藤本 洋一 (ICT 活用学習支援センター)
小松 一男 (人間情報システム工学科)	小島 俊輔 (ICT 活用学習支援センター)
永田 和生 (情報通信エレクトロニクス工学科)	村山 浩一 (機械知能システム工学科)
藤井 慶 (人間情報システム工学科)	村田 美友紀 (生物化学システム工学科)
	赤石 仁 (八代キャンパス共通教育科)

【事務局】

内山 慎一 (総務課長)	遠藤 真一 (学務課長)
大平 和美 (管理課長)	光永 清司 (学術情報係長)

◆ICT活用学習支援センター熊本キャンパス委員会委員

三好 正純 (人間情報システム工学科)	野尻 紘聖 (制御情報システム工学科)
石原 秀樹 (熊本キャンパス共通教育科)	西村 勇也 (制御情報システム工学科)
小松 一男 (人間情報システム工学科)	大隈 千春 (人間情報システム工学科)
西山 英治 (情報通信エレクトロニクス工学科)	神崎 雄一郎 (人間情報システム工学科)
永田 和生 (情報通信エレクトロニクス工学科)	藤井 慶 (人間情報システム工学科)
石橋 孝昭 (情報通信エレクトロニクス工学科)	光永 武志 (熊本キャンパス共通教育科)
大石 信弘 (情報通信エレクトロニクス工学科)	松尾 かな子 (熊本キャンパス共通教育科)
葉山 清輝 (情報通信エレクトロニクス工学科)	磯田 信一 (学生課長)
柴里 弘毅 (制御情報システム工学科)	

◆ICT活用学習支援センター八代キャンパス委員会委員

米沢 徹也 (八代キャンパス共通教育科)	赤石 仁 (八代キャンパス共通教育科)
藤本 洋一 (ICT 活用学習支援センター)	道園 達也 (八代キャンパス共通教育科)
小島 俊輔 (ICT 活用学習支援センター)	浦野 登志雄 (建築社会デザイン工学科)
村山 浩一 (機械知能システム工学科)	若杉 玲子 (生物化学システム工学科)
村田 美友紀 (生物化学システム工学科)	光永 清司 (学術情報係長)

「ICT活用学習支援センター報」創刊号をお届けします。当センターは学術情報活用支援事業部、ICT基盤整備事業部、ICT教育改善事業部、協調学習支援事業部の各事業部において様々な取組をおこなっています。従来の事業の維持・充実を図るとともに時代の変化に即応する事業の展開を目指しています。関係各位のご支援・ご批評をいただきながら、当センターにおける教育研究活動に尽力してまいりたいと存じます。今後ともお力添えをいただきたく、よろしくお願い申し上げます。

熊本高等専門学校ICT活用学習支援センター報 創刊号 2012年7月発行

編集/発行 熊本高等専門学校ICT活用学習支援センター

◆熊本キャンパス

〒861-1102 熊本県合志市須屋2659-2

Tel 096-242-6019

Fax 096-242-5504

◆八代キャンパス

〒866-8501 熊本県八代市平山新町2627

Tel&Fax 0965-53-1317